

鹿兒島県史料集 (Ⅷ)

明治元年戊辰戰役關係史料

鹿兒島県立図書館



鹿児島県史料集 (Ⅸ)

明治元年戊辰戦役関係史料

刊 行 の こ と ば

鹿児島県史料第九集として、ここに「明治元年戊辰戦役関係史料」を刊行いたします。

こんにちまで、別冊を含めて十冊目の刊行になるわけですが、いずれも県史料刊行委員の方々の並々ならぬご努力の賜にほかなりません。

本集は、県立図書館所蔵の史料をもとにして、同委員の村野守治氏によって、編集、校訂、校閲が進められ、刊行のはこびになったものであります。先生のお骨折りに対し、心から敬意と感謝を捧げたいと思います。

県史料の編集・刊行の事業は、県立図書館の重要事業の一つとして進められているものであります。

最近、地方史研究がさかんになりつつあるとき、研究者の利用に供するとともに、また地方史研究をさかんにするための一助にもという願がこめられているものであります。

皆様がたのご研究に少しでもお役に立てば幸甚に存じます。

昭和四十四年三月

鹿児島県立図書館長
新納教義

明治元年殉難人名誌

解題

「明治元年戊辰戦役関係史料」として県立図書館所蔵の「明治元年殉難人名誌」「戊辰戦役薩藩各隊行動」「明治戊辰戦役戦死負傷人名及報告集」「戊辰戦役出陣日誌」をおさめることにした。

「明治元年殉難人名誌」は明治元年の戊辰戦争従軍者の戦死者及び戦病死者に就いての記録である。鹿児島県立図書館所蔵本で写本である。内容からみて明治四年の薩藩置県以前に鹿児島藩が編纂したものであらうと思うが、他にこの種の記録がないので貴重な価値を持っている。

内容は第一号と第二号にわかれ、第一号は毛利強兵衛元景以下隊長、監軍クラスの四〇名の戦死者をあげ、ついで大山源右衛門行安以下の戦士二〇九名合せて二四九名をあげている。しかし小銃第六隊監軍の松田健四郎通実は重複して二度出て来るので実際の人数は一名減じて二四八名となる。第二号は戦死者二四六名と小銃一番隊長鈴木武五郎利安以下の戦病死者四六名をあげている。第一号、第二号合計戦死者四九四名、病死者四六名併せて五四〇名となる。

同じような記録に「戊辰 殉難姓名録 鹿児島県編纂」がある。この記録は次ぎの序文にあるように明治一七年に鹿児島県で編纂したものであり、この序文によれば編纂の経緯が判明するので次ぎにあげてみる。

戊辰 殉難姓名録序

慶応三年十月徳川慶喜奉還 政權 越 明年正月拳 兵 而反 自 大坂分道北上、官軍邀之、伏見及鳥羽 撃 而敗之、尋而征討大將軍嘉彰親王督

兵而至、賊退保濃城、濃城陷、追北、到山崎、慶喜大懼、遂棄大坂、夜遁、官軍凱旋、二月東征大総督熾仁親王帥諸侯之兵、發京師、由三道而進、抵江戸、慶喜伏罪、而余党数千、扼東叡山、乃移兵擊屠之、既而賊軍嘯聚奥越之間、朝廷益發兵、由東北、海陸合勢討之、八月諸軍遂入会津、城乃陷、而余賊遠逃北高屯聚箱館、朝廷更遣兵往剿之、至此辺陲悉平、東征之役本県士多為先鋒、攻城野戰莫不克捷、征行者八千余人、戰亡者五百七十一人矣、本県固有殉難姓名錄藏于城西招魂社、丁丑之乱罹兵燹、後使吏員編纂之、刻成因略叙征討之顛末、以弁卷端云。

明治十七年一月招魂社例祭前一日

鹿児島県令從五位 渡辺 千秋撰

渡辺県令の序文に見られるように戊辰戦争殉難者の記録が招魂社に残っていたが明治十年の西南の役の兵火に罹って焼けたので、県の吏員に編纂させたのであると記されている。両者を比較するとそれぞれ特徴はあるが「明治元年殉難人名誌」の記録の内容が戊辰戦争後時日をあまり経過していないだけに「戊辰 殉難姓名録」の内容よりは記述が確実である。両者の内容を比較してみよう。

「明治元年殉難人名誌」

戦死者

鳥羽伏見 六二
関東 四五
奥羽 五八
会津 六八
越後 二〇三
出羽 五八

計

四九四（士分四二〇
夫卒七四）

病死者

四六（士分
夫卒一九七）

函館

軍艦で焼死

江戸薩摩闘死

総計

五四〇（士分四四七
夫卒九三）

一、戦死者が四九四名と四七二名より廿二名多くなっている。これは戦死者が会津で十七、越後で一〇羽州で一計廿八名と他領出身の農民で参戦した戦死者が記録されている。これに対して「殉難姓名録」には旧薩藩領関係者だけで他

「戊辰 己巳 殉難姓名録」

六二
四五
五九
五二
一九七
五七

四七二（士分四二〇
夫卒五二）

四四（士分
夫卒一六八）

七

三九（士分
夫卒一四五）

五七〇（士分四八八
夫卒八二）

一、前記の統計で見られるように、函館七、軍艦で焼死八、及び慶応三年十二月江戸薩摩焼討で闘死した薩摩留守居篠崎彦十郎以下の闘死者三九名が加えられているので「殉難人名誌」の五四〇名より多い五七〇名となっている。なお渡

領出身者ははぶかれている。

二、殉難人名誌の最大の特徴は出身地と遺族名をあげていることである。外城第四隊戦士平原平八郎定正は伏見で戦死、山水郷士族、養父平原龍助、実子無之というように出身地が書いてある。また私領第二隊夫卒、太郎（十五）は淀川堤で戦死しているが、出身地と遺族が伊集院野田村農夫大砲第一隊石神万右衛門従卒、親武助とあり私領第三隊夫卒甚太郎（二三）は会津飯寺村で戦死しているが、鹿児島藩加治木（郷）木田村平門農夫、父鏡太郎と門名まで書かれているので遺族にとつてはわかりやすいし、また調査する場合も手掛りが得られることになる。

別な機会にも書いたが（鹿児島県の教育十四号「戊辰戦争と明治元年殉難人名誌」）、加世田は伊作と外城二番隊を組織し、外城二番隊の武士八六名のうち加世田は半数の四三名が参加、その他番兵や砲隊などに参加したものを加えると武士六八名が参加している。この他に夫卒や従兵、玉葉持夫などに参加した庶民（主として農民）もあつたらうが記録に残っていない

辺県令の序文には征行者八千余人戦亡者五百七十一人とあり、一名多い。これは明治四年時勢を憤慨して集議院の門前で自刃した横山正太郎（森有礼の兄）を含んで五七一人となるが、横山の自刃は明治四年であるので明治元年の殉難者からはぶいたので五七〇名となる。

二、函館（七）、軍艦で焼死（八）江戸薩摩闘死（三九）は「明治元年殉難人名誌」に出て来ないので末尾にあげておくことにした。

い。「殉難人名誌」に出てくる武士の戦死者五名は「加世田市誌」にも記され、人数・人名ともに一致する。ところが「殉難人名誌」には「加世田市誌」に出て来ない戦死者が出てくる。出羽花館で八月二三日戦死した城下一五番隊中村喜次郎の従卒早助で出身は津貫村今村門である。また若松城攻撃で九月一九日戦死した十郎（三二才）は同じ津貫村徳留門の名子亡与左衛門男子で外城二番隊の玉葉持夫として働いていたのである。この早助と十郎は「加世田市誌」にも書かれず、また加世田竹田神社の戊辰戦争戦死者のなかにもはいらず、出身地の加世田市でも永久に忘れられようとしているのを、「殉難人名誌」だけが忘却の彼方から早助と十郎の名前をしっかりと残してくれているのである。筆者が前任地加世田高等学校に奉職中、加世田高校の社会科同僚牛垣早郎・平瀬定行・畠中彬三教諭と同行して早助と十郎の遺族と墓を調査した。十郎の遺族は既に津貫に居らず墓の所在も不明であったが、早助の遺族と墓は探しあてることができた。早助の兄権四郎の御遺族に案内された墓標は「慶応四年辰八月二十三日出羽秋田城攻撃之節炮火ニ当リ死ス」「行年二十一才今村門之早助」とあり、早助の年令二十一才も記してある。なお遺族は早助は主人中村喜次郎の身代りになって焼死したと話して居られた。このような例は他の町村でも出身地が門名まで判明して居るので調査しようと思えば手がかりが得られるのである。

伊集院町の場合でも事情は同じである。上之馬場諏訪神社の隣に戊辰戦争戦死者の招魂碑が建てられている。そこに祭られている十二勇士は武士の十一名と外城三番隊（伊集院・串木野・市来）の夫卒として従軍して長

岡の戦に負傷し、やがて歿した神殿村桃北門の市太郎（二七才）である。しかし「殉難人名誌」にはこの外に太郎（十五才）、三五郎（三四才）、半助の三人の農民を記録している。このように伊集院町の農民四名のうち招魂碑に祭られているのは市太郎だけで、他の太郎、三五郎、半助の三人は招魂碑にも「伊集院町史」にも書かれず、その功績と名前が空しく消えはてようとしているのを「殉難人名誌」だけが確実にその名前と功績を記してしてくれるので貴重であるし、また「殉難人名誌」刊行の意義もあるのである。

また「殉難人名誌」には戦死者及び戦病死者の出身地も書いてあるので表にまとめてみた。

外城又は 私領隊名	郷士・家臣 戦死	戦病死	庶民 戦死	戦病死	計
外城一番隊	高岡	5	1	1	7
二番隊	加世田	5	1	1	7
三番隊	伊作	15	3		18
外城三番隊	伊集院	10	1	4	15
四番隊	串木野	8			8
五番隊	市来	5	3		8
六番隊	出水	9	2		11
七番隊	阿久根	7	2		9
八番隊	国分	3			3
九番隊	蒲生				
十番隊	川辺	1			1

種子島	指宿	高山	志布志	谷山	岩川	宮之城	加治木	鹿籠	知覽	都城
	1	3	3	5	1		6			8
			2					1	1	2
2	1	1					1		1	
	1		1	3			1			
2	3	4	6	8	1		8	1	2	10

〃	伝蔵	〃
〃	藤四郎	奥州二本松玉ノ井組 江川太郎岡村ノ
〃	半右エ門	人
〃	榮蔵	河内国船北郡 更進村農民
〃	弥蔵	大〓村ノ産
〃	岡右エ門	野州宇都宮ノ産
〃	松蔵	江戸本所ノ産
〃	政右エ門	奥州白川郡金山村
〃	熊吉	越後国小千谷農民
越後国片貝	徳松	越後国浦佐ノ大崎村ノ産
筒場村	徳四郎	越後国魚沼郡大崎村ノ産
下条村	治左エ門	越後国高田領
筒場村	八太郎	〃
〃	辰五郎	〃
越後国長岡	市次郎	在所不知
〃	順吉	越後国高田領農民
〃	源次郎	江戸出産
〃	悦次郎	越後国夏井村
〃	清吉	越後国高田領大鹿村
羽州村山郡		
島村		

この二八名のうち木幡孝之助から岡右エ門まで一五名は八月二三日の会津若松城の戦いで戦死している。この日は官軍が母成峠、十六橋の險を越えて若松城下に突入して激戦が行われ、薩藩関係者だけでも多数が戦死しこのなかに一五名の県外出身者がいるが、彼等は戦場で徴発されたり、あるいは志願に応じて夫卒として従軍したものである。

なお「殉難人名誌」や「殉難姓名録」に名前を留めている殉難者達の英霊は靖献霊社・招魂社・護国神社として祭られている。また西郷隆盛は私学校において常に戊辰戦死者の志を継いで国家につくすようにと生徒に訓示し、私学校生徒の若十人を選んで京都・東京・新潟・高田・会津・白川等の戊辰戦争の古戦場に派遣し墓参を行なわせた。しかしその後戦死者の遺骸は戦中各所に埋葬されたが、年をへて墓標もようやく荒廢しようとしたので、大正初年大山巖・松方正義・樺山資紀・東郷平八郎・山本権兵衛等戊辰戦争生き残りの人々が發起人となり、合葬を企て彌島津公爵家及び一般県出身者が当時の金で約二万円をつのり、京都・東京・東北・北陸の左記十カ所にまとめて合葬し新たに墓標を立てた。

地名	墓 所	会葬人数
京 都	相国寺林光院	七二
東 京	堀之内大円寺	七四
宇都宮	報恩寺	二三
白 河	旧城址	六三
若 松	顯通寺	三三
山 形	千歳公園	一〇

秋田	市外八橋村全良寺	四五
新潟	常盤岡	一五八
高田	金谷山	八〇
函館	汐見町	一〇

計 五六八人

昨年の明治一〇〇年記念を迎えるに当って東北・北陸の戦跡を巡拝し、参る人もない戊辰殉難者の墓地を訪れようという計画が、戊辰戦争戦跡巡拝団として組織されようとしたが希望者が少なくて実現せず、明治一〇〇年記念事業事務局で四人の調査員が戊辰戦争の史跡、関係史料、墓地を調査し、殉難者の回向を行なった。

また宮城県鳴子町では仙台藩士に暗殺された薩摩藩士内山伊右衛門等の一〇〇年法要が六月十五日伊右衛門及び伊右衛門と同行して殺された歩卒西田十太郎、下僕太郎等の墓前でとり行なわれた。そして現地の宮城県で探していた遺族も判明し、遺族代表として加治木保健所長の内山裕さんがはるばる法要のお礼に宮城県まで行かれたということなどもあった。吉川弘文館で近く刊行する予定の「明治維新人名辞典」にも鹿児島県関係者が二百数十名掲載されることになって居る。

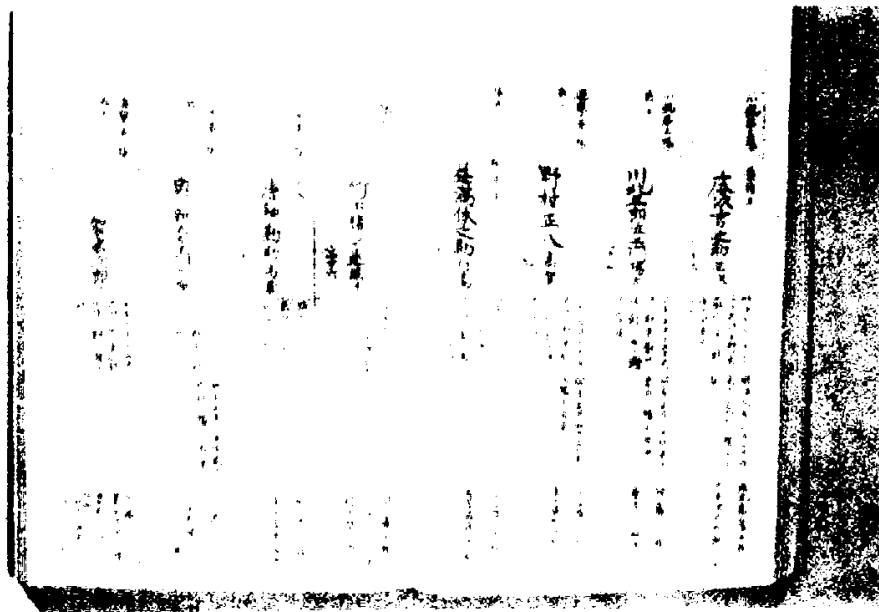
「戊辰戦役薩摩各隊行動」鹿児島県史編纂事務所で蒐集した記録が県立図書館に引き継がれたもの、戊辰役薩摩各隊の行動が出発年月日並上陸地、出征地、戦場又は守衛場所、凱旋出発地並鹿児島着日、隊長並監軍氏名などそれぞれ精確の差はあるが述べられて居り、戊辰戦争関係の史料として役立つと思う。

「明治戊辰 戦役戦死負傷人名及報告集」は表紙に温故知新主人蔵で大正六年二月下辭写とあり末尾に温故知新主人の本名坂田長愛と記されている。筆者の坂田長愛氏は鹿児島県肝付郡根占地方の出身で明治三十九年四月から鹿児島県立第二鹿児島中学校（現在の甲南高等学校の前身）の教諭であった。前鹿児島市立美術館長谷口午二氏も坂田先生は二中時代の恩師であったといわれる。坂田氏はのち上京し、島津家編集所に奉職し史料の筆写などに従事されたという。県立図書館には坂田氏の筆写された史料や、「木村探元小伝」「黒田清綱伝」稿本、「小松帯刀伝」稿本、「高崎正風伝」稿本等を残している。

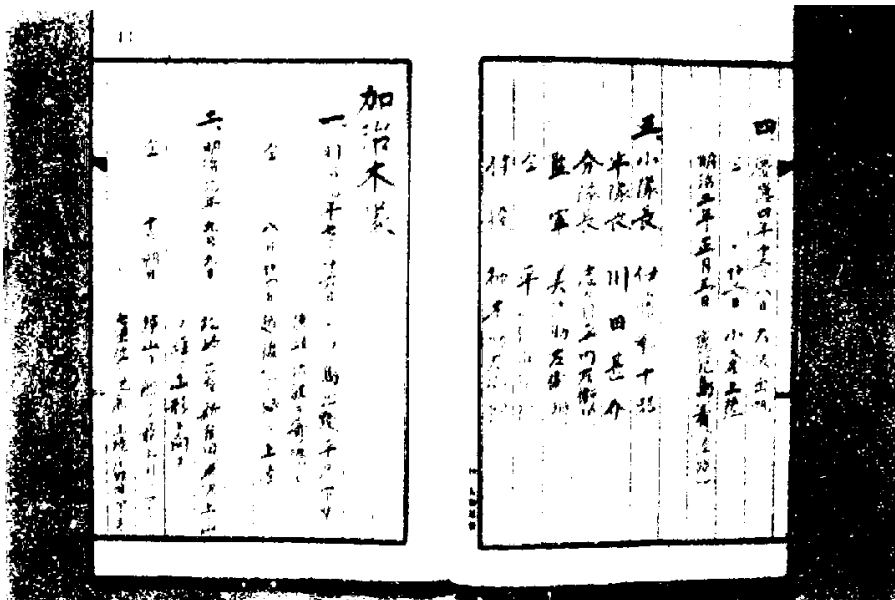
この書の内容の戦死負傷人名のうち戦死者はいくらか「殉難人名誌」の記事と重複する部分もあるが、後半の部分は鳥羽伏見戦争の従軍者が故郷薩摩の肉親にあてた戦況報告が主であるので甚だ興念深く、また史料としての価値もある。

「戊辰役出陣日誌」これは戊辰役の従軍日誌としては割合に簡単なものであるが、出陣日誌の一例として紹介することにした。筆者は不明であるが文中高山、田代、小根占士族と私の都合四人が小頭、差引を勤めたところ、高山、田代、小根占等と関係の深い肝付郡出身者であろう。

なお「戊辰之役見聞雑記」は戊辰之役の前半特に鳥羽伏見の戦の前後の頃の見聞雑記として詳細なもので原稿紙八〇枚、本書の二〇頁分となるが今回は紙数の都合で割愛した。またの機会に紹介したい。



明治元年殉難人名記



戊辰戦役薩藩各隊行動

明治戊辰八月廿一日 伏見鳥羽戰役 戰死負傷人名並報告書	明治戊辰八月廿一日 伏見鳥羽戰役 戰死負傷人名並報告書
--	--

明治戊辰伏見鳥羽戰役
戰死負傷人名並報告書

明治戊辰八月廿一日 伏見鳥羽戰役 戰死負傷人名並報告書	明治戊辰八月廿一日 伏見鳥羽戰役 戰死負傷人名並報告書
--	--

戊辰役出陣日記

凡 例

一、「明治元年殉難人名誌」「戊辰戦役薩藩各隊行動」「明治戊辰戦役戦死負傷人名及報告集」「戊辰戦役出陣日誌」とも明治元年の戊

辰戦争に関する史料で、いずれも鹿児島県立図書館所蔵本である。

一、「明治元年殉難人名誌」は解題に記した通り同種類の「戊辰己巳殉難姓名録」があるので、これによって校訂を加えた部分もある。

一、印刷の都合で漢字は当用漢字に改めたものもある。

また、よりはふとし、虫喰いで不明の箇所は□とした。

一、本史料の編集並びに校訂者は鹿児島県立加世田高等学校の村野守治である。

明治元年

第一号

山城 伏見 八鳥 幡羽 下野 築田 宇都宮 出羽 清川 岩手山 花館

下総 八岩 幡井 上総 五ヶ崎 井 武蔵 上野 陸奥 白川 倉 太田川 二本松 岩城 津平

越後 福島 崎 川 辺 切 村 大黒 村 筒場 村 小松 村 長岡 之戦争

隊号等級官名姓名年令 死没年月日地名

本貫属族国郡郷里
親族

外城第一隊監軍

明治元年正月四日山城

鹿兒島藩士族

毛利強兵衛元景

国鳥羽戦争ニ創ヲ被リ

嫡子毛利英助

三十四

二月十四日歿ス

大砲第二隊分隊長

明治元年正月五日山城

鹿兒島藩士族

中島弥次郎広庭

国鳥羽街道ニ於テ戦死

兄中島健彦

二十三

ス

小銃第五隊監軍

明治元年正月五日山城

鹿兒島藩士族

椎原小弥太国寧

国鳥羽街道ニ於テ戦死

親兄弟直子トモ無之

二十九

ス

甥 森山栄熊

小銃第六隊監軍

明治元年正月五日山城

鹿兒島藩士族

市来勤兵衛政正

国鳥羽街道富之森ニ於

父市来一兵衛嫡子

三十

テ戦死

嫡子市次郎

小銃第十二隊隊長

明治元年正月五日山城

鹿兒島藩士族

伊集院与市兼豊

国淀戦争ノ時堤上ニ於

養子四本孫左衛門四

三十七

テ戦死

男勇熊 親類森六郎

兵衛 伊集院中二

第一隊兵具隊半隊長

明治元年四月廿三日野

鹿兒島藩士族

井上猪右衛門長発

州宇都宮城攻撃ノ時戦

実父 市来衆

二十八

死

井上良盛坊

遊撃第四隊分隊長

明治元年四月廿四日羽

鹿兒島藩士族

伊地知愛四郎季寿

州田川郡清川戦争ニ創

父直右衛門嫡子

二十三

ヲ被リ七月廿八日歿ス

弟正之丞

隊長

内山伊右衛門綱二

東征出軍中羽州通行ノ

鹿兒島藩士族

三十五

節閏四月十八日嗚呼山

家督 嫡子亀千代 己七才

ニ於テ仙賊ニ殺害セラ

ル

大砲第二隊半隊長

明治元年五月朔日奥州

鹿兒島藩士族

小野藤吉吉風

白川城ヲ攻陥スル時戦

兄彦兵衛

二十六

死

正月三日伏見鳥羽ヨリ六日八幡迄出軍戦争

遊撃第一隊半隊長

明治元年五月十五日武

鹿兒島藩士族

竹迫十次郎経業

蔵国上野東叡山戦争ニ

兄竹迫弥七郎

二十五

創ヲ被リ廿一日歿ス

徵兵小銃第八隊隊長

明治元年六月二日越後

鹿兒島藩士族

野元助八為清

國嶋崎ノ難戦ニ創ヲ被

養父仲左衛門

二十七

リ十日歿ス

小銃第十隊隊長

明治元年六月十四日越

鹿兒島藩士族

山口鉄之助直秀

後國古志郡大黒村砲台

実兄田辺七左衛門

三十二

ニ賊襲來防戦シテ死ス

小銃第十隊半隊長

明治元年六月十四日大

鹿兒島藩士族

皆吉九平太義統

黒村戦争ノ節砲台ヲ固

弟丈助

二十四

守シテ戦死

外城第四隊隊長

明治元年六月十四日越

鹿兒島藩士族

中村源助高行

後三島郡川辺村賊襲來

父方大叔父

二十四

ノ時創ヲ被リ廿七日歿

豎山休五郎

ス

父方従弟野村新助

正月三日伏見ヨリ六日八幡戦争出軍

小銃第十隊監軍

明治元年六月廿一日越

鹿兒島藩士族

村田長左衛門経武

後大黒村戦争ニ創ヲ被

養父源右エ門

三十七

リ廿三日歿ス

嫡子村田長熊

小銃第十隊半隊長

明治元年六月廿一日越

鹿兒島藩士族

大重弥早太兼善

後筒場村ノ戦ニ重傷ヲ

父仲之助嫡子

二十

被リ八月十四日歿ス

小銃第十二隊半隊長

明治元年六月廿四日賊

鹿兒島藩士族

堀孫六起長

ヲ奥州新田坂ニ討時創

実父山本五郎右衛門

二十一

ヲ被リ七月十九日歿ス

正月四日ヨリ六日八幡迄ノ戦争出軍

小銃第七隊監軍

明治元年六月廿八日夜

鹿兒島藩士族

西郷宗次郎房整

越後大黒村ノ砲台ニ於

父八郎次嫡子

三十六

テ創ヲ被リ七月朔日歿

ス

正月六日八幡戦争出軍

小銃第七隊半隊長

明治元年七月二日越後

鹿兒島藩士族

村田万次郎経則

長岡領大黒村砲台ニ於

兄村田彦兵衛

二十二

テ創ヲ被リ十四日死ス

外城番兵第一隊半隊長

明治元年七月十三日奥

鹿兒島藩士族

末弘武輔時淳

州岩前郡中山村ニ於テ

父五左衛門嫡子

二十三

賊ヲ撃テ戦死ス

直子無之

小銃第九隊隊長

明治元年七月十三日奥

鹿兒島藩士族

樺山十兵衛資風

州岩城平ノ城ヲ攻陥ス

父樺山武左衛門

二十四

ル時創ヲ被リ八月廿四

日歿ス

正月六日八幡戦争出軍

小銃第十隊半隊長

明治元年七月廿五日越

鹿兒島藩士族

伊勢斎七貞廉

後長岡城難戦ニ重傷ヲ

実弟伊勢猛熊

二十六

被リ廿六日歿ス

小銃第十三隊監軍

明治元年七月廿五日曉

鹿兒島藩士族

牧野正之進正転

越後長岡領福島村水門

養父牧野半兵衛

三十九

口砲台ニ戦死

小銃第十四隊隊長

明治元年七月廿五日越

鹿兒島藩士族

鮫島周吉正直

後長岡敗戦ノ時城中病

嫡子鮫島乙熊

三十

院ニ在テ戦死

外城第二隊監軍

明治元年七月廿五日越

鹿兒島藩士族

石神彦七助持

後長岡ノ難戦ニ創ヲ被

父彦兵衛嫡子

二十四

リ己四月六日死ス

外城第二隊分隊長

明治元年七月廿五日押

鹿兒島藩士族

松崎麟平時實

切台場ヲ奪取スル時創

養父松崎清右衛門

二十六

ヲ被リ九月八日死ス

正月三日鳥羽ヨリ八幡迄戦争出軍

大砲第二隊分隊長

明治元年七月廿九日奥

鹿兒島藩士族

有川藤七郎貞常

州二本松ヲ攻陥スル時

父十右衛門嫡子

二十一

戦死

正月三日伏見鳥羽ヨリ六日八幡戦争迄一番大砲隊編入ニテ出軍

番兵第二隊監軍

明治元年八月二日越後

鹿兒島藩士族

西郷吉次郎隆貞

曲淵村五十嵐川戦争ニ

兄吉之助

三十六

創ヲ被リ十四日死ス

嫡子勇袈裟

小銃第七隊監軍

明治元年八月十日越後

鹿兒島藩士族

湯地休左衛門祐孝

会津領小松村進撃ノ時

休左衛門弟

三十九

創ヲ被リ九月朔日歿ス

永山覚二郎

妻従弟加世田十兵衛

正月六日八幡戦争出軍

小銃第五隊隊長

大山十郎次綱導

二十九

明治元年八月廿三日奥
州若松城攻撃ノ時創ヲ
父五郎右衛門嫡子
被リ九月二十四日歿ス

正月三日鳥羽ヨリ淀迄戦争出軍

番兵第三隊隊長

島津新八郎久徴

二十八

明治元年八月廿三日羽
州秋田領花館ノ駅ニ庄
内賊兵ト戦ヒ敵中ニ切
入り死ス
鹿兒島藩士族
次弟
基太村一二

遊撃第四隊小隊長

山元次郎兵衛長之

三十五

明治元年八月廿三日羽
州秋田領花館戦争ノ節
死ス
鹿兒島藩士族
弟清左衛門
壯四郎

遊撃第四隊分隊長

長尾清右衛門景親

三十五

明治元年八月廿三日羽
州秋田領花館戦争ニ死
ス
父善次嫡子
三弟与右衛門

番兵第三隊分隊長

伊集院八郎左衛門兼文

明治元年八月廿四日羽
州秋田領花館ノ戦ニ戦
鹿兒島藩士族
父八十右衛門

二十五

死

大砲第一隊半隊長

川上四郎次親彦

二十五

明治元年八月廿八日奥
州会津城攻撃ノ時創ヲ
父弥右衛門嫡子
被リ九月四日歿ス

正月伏見鳥羽八幡ノ戦争ニ出軍壬酉四月七日下午総五井駅ノ戦ニ浅
創ヲ被リ平癒シテ関東ニ赴ク

私領第三隊隊長

山田 司有本

三十二

明治元年九月三日奥州
会津領関山峠ニ戦死ス
鹿兒島藩士族
兄吉利群吉
直子無之

鎮撫総督府軍監

志岐太郎次郎守約

二十四

明治元年九月十一日羽
州秋田領川辺郡豊島村
ノ戦ニ創ヲ被リ十九日
歿ス
鹿兒島藩士族
父小左衛門嫡子

大砲第四隊監軍

川上八郎左衛門親貞

四十二

明治元年九月十五日奥
州若松城下ニ於テ戦死
嫡子川上英千代

小銃第六隊監軍

松田健四郎通実

四十四

明治元年九月十七日会
津若松攻撃之時ニ創ヲ
被リ十月朔日死ス
鹿兒島藩士族
家督
嫡子次右衛門

大砲第二隊隊長 明治元年九月二十日羽 鹿兒島藩士族

久永竜助貞昌 州庄内領米沢村ノ戦ニ 父直助嫡子

二十三 死ス

五月十四日越後石地戦争ノ時創ヲ被リ平癒ノ上再出軍正月三日
伏見ヨリ鳥羽八幡迄戦争出軍

隊号等級 官名姓名年令 死没年月日何地名 履歴戦 本貫属族国 郷里親族

大砲第一 大山源右衛門行安 明治元年正月三日 鹿兒島藩士族

隊戦士 二十二 夜伏見御香宮下ニ 父源七郎嫡子

於テ戦死

小銃第一 小頭見習 同年正月三日伏見

隊 伊集院金次郎正雄 ニ於テ戦死 同藩士族 直子無之父方

三十二

從弟

岩下 清之丞

三原 彦之丞

小銃第一 小頭見習 同年正月三日伏見

隊 山田孫一郎有清 之戦ニ重創ヲ被リ

同月十日歿ス

嫡子

山田 松次郎

從弟

市木新左エ門

小銃第一 小頭見習 同年正月三日伏見 同藩士族

隊 八田幸輔 知古 之戦ニ重創ヲ被リ 父喜左エ門二

男 同月十七日歿ス

小銃第二 兵糧役 明治元年正月三日 鹿兒島藩士族

三十五

子

小銃第二 小頭 同年正月三日伏見 同藩士族

隊 西 藤次郎長孝 奉行屋敷ニ於テ戦 養子西藤次郎

死 二十五

小銃第二 平岡彦九郎之綱 同年正月三日伏見 同藩士族

隊戦士 二十五 御香宮下ニ於テ戦 兄平岡万之助

死

小銃第三 人馬方 同年正月三日伏見 同藩士族

隊 堀 弥之助金隆 ニ於テ戦死 嫡子堀善太郎

二十七

小銃第四 山田雄助弘道 同年正月三日伏見 同藩士族

隊戦士 二十一 ノ戦ニ重創ヲ被リ 実父安藤直左

三月四日歿ス エ門

外城第四	平原平八郎定正	同年正月三日伏見	同藩出水郷	養家叔父	岡田 清吉
隊戰士	三十二	之戦ニ重創ヲ被リ	士族養父		
		同月二十六日歿ス	平原 竜助		
			実子 無之		
外城第四	松木嘉右エ門重秀	同年正月三日伏見	同藩士族		
隊戰士	二十八	之戦ニ重創ヲ被リ	出水郷士族		
		二月朔日歿ス	直子無之		
			養父		
			松本 仲之進		
小銃第二	月野徳次郎	同年正月三日伏見	同藩中村源五		
隊夫卒	三十一	ニ於テ戦死	從卒 実ハ		
			中村八郎左エ		
			門家臣		
			從弟		
			月野万太郎		
小銃第二	牧野休八	伏見之戦ニ從ヒ死	鹿兒島士族		
隊之夫卒		ス月日詳ナラス	市田右近家臣		

外城第一	中原八郎 景全	明治元年正月三日	同藩高岡士族		
隊戰士	三十	夜竹田街道ニ於テ	実父		
		戦死	中原七左エ門		
兵具第二	篠崎勘七 知明	同年正月三日竹田	同藩士族		
隊戰士	三十	街道ニ於テ戦死	実兄		
			二見 浦之助		
外城第一	入田新左エ門親賀	同年正月三日鳥羽	同藩高岡士族		
隊戰士	二十二	街道ノ戦ニ創ヲ被	実父 入田七		
		リ三月三日歿ス	郎左エ門		
小銃第二	宅間総左エ門道治	同年正月四日伏見	同藩士族		
隊戰士	二十二	三雲橋ニ於テ戦死	実父 坂元源		
			五左エ門		
小銃第三	白尾孫兵衛幸政	同年正月四日伏見	同藩士族		
隊戰士	二十四	三雲橋ニ於テ戦死	養子		
			白尾 七之助		
遊撃第一	堀添清左エ門篤行	同年正月四日伏見	同藩士族		
隊戰士	二十七	ノ戦ニ創ヲ被リ三	実兄 堀添小		
		月二日歿ス	左エ門		

大砲第二 川西与十左エ門 同年正月四日鳥羽
隊戦士 幸実 二十一 街道ニ於テ戦死

同藩士族
父佳左エ門
嫡子

小銃第一 塩田雄蔵 国幸 明治元年正月四日
隊戦士 十九 鳥羽之戦ニ創ヲ被
リ二月十一日歿ス

鹿兒島藩士族
父郷左エ門
嫡子

小銃第五 岩山佐平太直義 同年正月四日鳥羽
隊戦士 二十三 ニ於テ戦死

同藩士族
実弟岩山勇
之助継目養
子ヲ命ス

小銃第六 肥後嘉二盛徳 同年正月四日鳥羽

同藩士族

隊戦士 二十 街道ニ於テ戦死

兄甚之丞三弟

小銃第六 野村清兵衛盛英 同年正月四日鳥羽

同藩士族

隊戦士 二十一 街道ニ於テ戦死

父方叔父山本

猪散太

父方叔母舞

久永直助

小銃第六 前谷宗知惟則 同年正月四日鳥羽
隊戦士 十九 街道之戦ニ重創ヲ
被リ同月六日夜歿
ス

同藩士族
父一兵衛嫡子

小銃第六 平田喜右エ門正次 同年正月四日鳥羽
隊戦士 二十二 ノ戦ニ重創ヲ被リ
同月十七日歿ス

同藩士族
実弟
平田喜次郎

遊撃第一 溝口雄四郎俊粹 同年正月四日鳥羽
隊戦士 二十 街道ニ於テ戦死

同藩士族
父十兵衛四男

遊撃第一 関十郎左衛門長信 同年正月四日鳥羽
隊戦士 二十一 街道ニ於テ戦死

同藩士族
弟関十郎

遊撃第三 橋口彦四郎兼隆 明治元年正月四日
隊戦士 三十五 鳥羽ニ於テ戦死

鹿兒島藩士族
兄源右エ門

外城第二 鮫島十郎兵衛宗弼 同年正月四日鳥羽
隊戦士 三十九 街道ニ於テ戦死

同藩加世田郷
士族 父六郎
左エ門嫡子
嫡子鮫島真吉

兵具第二 藤崎甚四郎敬直 同年正月四日鳥羽
隊戰士 二十五 二於テ戰死

同藩士族
養子
八郎左エ門

兵具第二 竹下平左エ門種氏 同年正月四日鳥羽
隊戰士 二十三 ノ戰ニ重創ヲ被リ
同月十一日歿ス

同藩士族
実父竹下覺一

大砲第二 四本佐平次英風 同年正月五日鳥羽
隊戰士 二十三 街道ニ於テ戰死

同藩士族
実父
四本休左エ門

大砲第二 大場軍輔景広 同年正月五日鳥羽
隊戰士 二十九 街道ニ於テ戰死

同藩士族
從弟
三島善兵衛

大砲第二 伊東強右エ門祐啓 同年正月五日鳥羽
隊戰士 二十五 街道ニ於テ戰死

同藩士族
矢八郎二弟

小銃第三 入佐助八 兼友 同年正月五日鳥羽
隊戰士 二十四 二於テ戰死

同藩士族
親子兄弟

小銃第三 福田喜左エ門政清 明治元年正月五日
隊戰士 二十 鳥羽ニ於テ戰死

無之從弟入佐
五次右エ門同
宮内助市
鹿兒島藩士
族
弟福田喜十郎

臼砲隊 玉藥方 同年正月五日淀川
家村彦五郎住客 筋松原ニ於テ戰死

同藩士族
親家村彦作

小銃第十 小頭 同年正月五日淀川
二隊 平川助左エ門常行 堤ニ於テ戰死

同藩士族
父助七嫡子

遊撃第三 大河原壯之助隆近 同年正月五日淀川
隊戰士 二十一 堤ニ於テ戰死

同藩士族
実父
大河原才吉

遊撃第三 堅山卯一郎利憲 同年正月五日淀川
隊戰士 十九 堤之戰ニ重創ヲ被
リ同月六日歿ス

同藩士族
父郷之丞二男
直子兄弟無之

外城第二 坂元仲右エ門安容 同年正月五日淀小
隊戦士 二十六 橋ノ戦ニ創ヲ被リ
三月十二日歿ス

同藩伊作郷士
族養父
坂元仲兵衛

私領第一 小頭 同年正月五日淀川

同藩士族

隊 肥田雄太郎景直 堤ニ於テ戦死

二十六

島津元丸家臣
父
肥田休右エ門

私領第二 村尾十次郎將直 同年正月五日淀川

隊戦士 二十

堤之戦ニ創ヲ被リ

同月十三日夜歿ス

同藩士族

島津右門家臣
父村尾徳藏

私領第二 有川嘉吉郎貞直 明治元年正月五日

隊戦士 二十二

淀川堤ニ於テ戦死

鹿兒島藩士族

喜入多門家臣

父有川市郎右

エ門

兵具第二 上村戸右エ門清香 同年正月五日鳥羽

隊戦士 二十

之戦ニ創ヲ被リ同

月十日歿ス

同藩士族

実兄萩原十吉

私領第二 太郎 同年正月五日淀川

隊夫卒 十五 堤ニ於テ戦死

同藩士族 伊

集院野田村農

夫大砲第一隊

石神万右エ門

従卒親武助

小銃第三 宅万栄之丞道近 同年正月六日八幡

隊戦士 十九

之戦ニ重創ヲ被リ

同月十六日歿ス

同藩士族

実兄宅万伴助

小銃第三 平川丈助 常尚 同年正月六日八幡

隊戦士 二十四

ノ戦ニ重創ヲ被リ

同月廿四日歿ス

同藩士族

助七男ニテ直

子無之

小銃第四 柳田藤之丞安則 同年正月六日八幡

隊戦士 二十五

ニ於テ戦死

同藩士族

親柳田万右エ

門三男

小銃第八 鎌田尚円政厚 同年正月六日八幡

隊戦士 十九

ニ於テ戦死

同藩士族

実父

鎌田与左エ門

小銃第九 阿多孫次郎実輝
同年正月六日八幡
隊戦士 十七
之戦ニ創ヲ被リ同
月廿六日歿ス

同藩士族
父源七嫡子

小銃第五 赤井清心直正
明治元年正月六日
隊戦士 二十一
八幡ニ於テ戦死

鹿兒島藩士族
兄清七郎弟

遊撃第二 田中直次郎守時
同年正月六日八幡
隊戦士 二十五
ニ於テ戦死

同藩士族養子
田中清之丞

私領第一 伍良
同年正月六日橋本
隊 浜田才之丞義秀
二十六
ニ於テ戦死

同藩士族
島津元丸家臣
実兄財部禎輔
直子無之

私領第一 江口幸右衛門盛吉
同年正月六日橋本
隊戦士 二十三
ニ於テ戦死

同藩士族
島津元丸家臣
実兄江口与一
郎

外城第四 三五郎
同年正月九日伏見
隊夫卒
戦争後大坂城中ニ
火起リシ節焼死

同藩農民
出水郷下知識
村

小銃第四 橋口与助兼武
同年三月九日野州
隊戦士 二十七
築田ノ駅ニ賊ヲ破
テ死
同藩士族
兄与一郎四弟

小銃第四 坂本亮之介清嘉
同年三月九日 明治元年正月
隊戦士 二十五
野州築田ノ駅 三日遊撃ニテ
ニ賊ヲ討時創 四日鳥羽ヨリ
ヲ被リ同月廿 八幡戦争迄出
二日歿 軍

大砲第二 河野宗八通義
同年四月二十 同年正月三日
大隊戦士 二十八
日下総岩井ノ 伏見鳥羽八幡
駅ニ賊ヲ破リ 戦争迄出軍
テ死
同藩士族
養父直右エ門

大砲第二 藤助
明治元年四月
番隊夫卒 廿日下総岩井
駅ニ於テ戦死
鹿兒島藩
大迫村ノ農夫
兄袈裟市

小銃第五 上田友輔実秀
同年四月廿三 明治元年正月三
隊戦士 二十六
日野州宇都宮 日三番遊撃隊ニ
城攻撃ノ時我 テ四日鳥羽ヨ
六番隊等ヲ援 リ八幡戦争迄
テ死 出軍
下河辺半蔵
父方樺山平左
エ門
母方従弟

小銃第六 岩切彦次郎美慶 同年四月廿三 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 二十五 日野州宇都宮 二番遊撃隊ニ 兄

城攻陥ノ役ニ テ鳥羽ヨリ八 岩切助右エ門
戦死 備戦争迄出軍

小銃第六 加納次右エ門 同年四月廿三 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 武文 十八 日野州宇都宮 ヨリ鳥羽五日 直子無之養子

城攻陥ノ役戦 淀迄出軍 加納藤右エ門
死

小銃第六 築地宗次郎良胤 同年四月廿三 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 二十八 日野州宇都宮 鳥羽ヨリ五日 実父

城攻陥ノ役ニ 淀迄出軍 井上彦右エ門
戦死

小銃第六 伊地知助五郎 同年四月廿三 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 季秀 二十一 日野州宇都宮 鳥羽ヨリ五日 父新助嫡子

城攻陥ノ時若 淀戦争迄出軍
戦シテ死ス

小銃第六 岩城平右エ門 同年四月廿三 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 季武 二十三 日野州宇都宮 鳥羽ヨリ五日 父平七嫡子

城攻陥ノ役ニ 淀戦争迄出軍
戦死

小銃第六 松井十郎兵衛 同年四月廿三 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 行直 二十三 日野州宇都宮 鳥羽ヨリ五日 実弟松井左七

城攻陥ノ役ニ 淀戦争迄出軍 郎
戦死

小銃第六 西田要之進恒器 明治元年四月 明治元年正月 鹿兒島藩士族
隊戦士 二十四 廿三日野州宇 三日鳥羽ヨリ 父矢兵衛嫡子

都宮城攻陥ノ 五日淀戦争迄 実弟松井佐七
役ニ戦死 出軍 郎

小銃第六 永山覺太郎盛礼 同年四月廿三 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 十八 日野州宇都宮 鳥羽ヨリ五日 実弟

城攻陥ノ役ニ 淀迄出軍 永山喜八郎
戦死

小銃第六 佐藤彦五郎公雄 同年四月廿三 同藩士族
隊戦士 二十三 日野州宇都宮 兄仲之丞二弟

城攻陥ノ役ニ
戦死

小銃第六 鷗木吉次郎政均 同年四月廿三 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 二十二 日野州宇都宮 二番遊撃隊ニ 父円塚三男

城攻陥ノ役ニ テ鳥羽ヨリ八
戦死 備迄出軍

小銃第六 川北六左衛門 同年四月廿三 同藩士族
隊戦士 陽高 十九 日野州宇都宮 島羽ヨリ五日 父新九郎嫡子
城攻陥ノ役ニ 淀迄出軍
戦死

城攻陥ノ役ニ 淀迄出軍
戦死

小銃第六 税所電右工門 同年四月廿三 同藩士族
隊戦士 篤清 二十 日野州宇都宮 島羽ヨリ五日 養子税所時彦
城攻陥ノ役ニ 淀迄出軍
創ヲ被リ六月 十七日歿ス

城攻陥ノ役ニ 淀迄出軍
創ヲ被リ六月 十七日歿ス

兵員第一 伍長 同年四月廿三 同藩士族
隊 内藤金次兼吉 十九 日野州宇都宮 金次養父善二
城攻陥ノ役ニ 戦死

城攻陥ノ役ニ 戦死

小銃第六 草野直太郎永徹 同年四月廿三 同藩士族
隊戦士 二十八 日野州宇都宮 島羽ヨリ五日 父弥八郎嫡子
城攻陥ノ役ニ 淀迄出軍
戦死

城攻陥ノ役ニ 淀迄出軍
戦死

小銃第三 京都東漸寺住僧 明治元年閏四
隊従卒 竹庵 月六日間諜ニ 鹿兒島藩
四十 出総州八幡ニ 種子島ノ産
殺害セラル 兄徳永十郎

出総州八幡ニ 殺害セラル

小銃第三 赤松守衛家臣 同年閏四月六 同藩従弟
隊夫卒 助市 日竹庵ト同ク 吉村善太郎ヲ
間諜ニ出総州 養子トナス
八幡ニ於テ殺
害セラル

間諜ニ出総州 八幡ニ於テ殺
害セラル

小銃第三 原田敬助経徳 同年閏四月七 同藩士族
隊戦士 二十六 日上総五井村 父才助三男
ノ戦ニ創ヲ被
リ同月廿日歿
ス

ノ戦ニ創ヲ被
リ同月廿日歿
ス

小銃第三 藤野休八良辰 同年閏四月七 同藩士族
隊戦士 二十六 日上総五井村 三日伏見島羽 父休右エ門三
ノ戦ニ創ヲ被 八幡迄出軍 男
リ五月十八日 歿ス

ノ戦ニ創ヲ被
リ五月十八日 歿ス

大砲第一 斥候役 同年閏四月七 同藩士族
隊 黒田平左エ門 日上総姉ヶ崎 伏見島羽八幡 実父
清孝 二十六 戦ノ戦ニ重創 戦争迄出軍 黒田平右エ門
ヲ被リ五月五 日歿ス

ヲ被リ五月五 日歿ス

小銃第四 小頭見習 同年閏四月廿 同年正月三日 同藩士族
隊 田中藤五郎資雄 五日奥州白川 伏見ヨリ八幡 父

二十六
ノ苦戦ニ賊ヲ 戦争迄出軍 五右衛門嫡子
伐テ死ス

小銃第四 小頭 同年閏四月廿 同年正月三日 同藩士族
隊 河野彦助通明 五日奥州白川 伏見ヨリ八幡 弟河野小二郎

二十二
ノ苦戦ニ死ス 戦争迄出軍

小銃第四 小頭 同年閏四月廿 同年正月三日 同藩士族従弟
隊 中原休左エ門 五日奥州白川 伏見ヨリ八幡 中原辰太郎叔

尚志 二十
ノ苦戦ニ死ス 戦争迄出軍 父中原喜十郎

小銃第四 小頭見習 明治元年閏四 明治元年正月 鹿兒島藩士族
隊 二階堂右八郎 月廿五日奥州 三日ヨリ八幡 養大叔父

行信 二十三
白川ノ苦戦ニ 戦争迄出軍 二階堂小源太
死ス

小銃第四 小頭見習 同年閏四月廿 同年正月三日 同藩士族
隊 左近允弥兵衛 五日奥州白川 ヨリ八幡戦争 父新七嫡子

尚友 二十四
ノ役ニ創ヲ被 迄出軍
リ六月廿二日
歿ス

小銃第四 染川彦兵衛実秀 同年閏四月廿 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 二十六 五日奥州白川 二番遊撃隊ニ

ノ役ニ戦死 テ四日鳥羽ヨ

リ八幡戦争迄
出軍

小銃第四 赤塚源之助直人 同年閏四月廿 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 二十二 五日奥州白川 ヨリ八幡迄出 実弟

ノ役ニ戦死 軍 赤塚友次郎

小銃第四 池之上新八盛行 同年閏四月廿 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 二十 五日奥州白川 八幡戦争迄出 兄新太郎三弟

ノ役ニ戦死 軍

小銃第四 浪士 同年閏四月廿 出産ノ地ナシ
隊戦士ニ 武川直枝 五日奥州白川

ノ役ニ戦死 属ス

大砲第一 玉葉方 同年五月朔日 同年正月三日 鹿兒島藩士族
隊 広瀬喜兵衛景則 奥州白川城攻 伏見ノ役ニ輕 実父新助

二十九 陥ノ時戦死 創ヲ被リ平愈
之後関東ニ趣
ク

小銃第五 伊地知清八季賢 同年五月朔日 同藩士族
隊戦士 二十五 奥州白川城攻 鳥羽ヨリ五日 父甚兵衛嫡子
陷ノ時戦死 淀迄出軍

小銃第二 古後七之丞秋賢 明治元年五月 鹿兒島藩士族
隊戦士 二十五 朔日奥州白川 三日鳥羽八幡 父七郎右エ門
城攻陷ノ時戦死 迄出軍

小銃第五 河野助五郎通清 同年五月朔日 同藩士族
隊戦士 二十 奥州白川ノ役 鳥羽ヨリ五日 大叔父
ニ戦死 淀戦争迄出軍 野左平太嫡子

小銃第五 坂元仲藏政実 同年五月朔日 同藩士族父方
隊戦士 二十 奥州白川ノ役 鳥羽ヨリ五日 ニ従弟川上九
ニ戦死 淀戦争迄出軍 郎右エ門姉賀
吉永清淳

小銃第五 有川彦右エ門 同年五月朔日 同藩士族父
隊戦士 貞美 二十二 奥州白川ノ役 鳥羽ヨリ五日 源右エ門三男
ニ戦ヒ創ヲ被 淀迄出軍
リ七月廿八日
歿ス

小銃第五 愛甲嘉右エ門 同年五月朔日 同藩士族
隊小頭見 季平 二十五 白川ノ役ニ重
創ヲ被リ已ニ
月七日ヲ以テ
死ス

隊外員隊 軍賦役 同年五月朔日 同藩士族
田中清右エ門 奥州白川城攻 弟周蔵ニ繼目
網紀 三十五 陷ノ時戦死 養子ヲ命セラ
ル

小銃第三 有馬早八郎純熙 同年五月七日 同藩士族
隊戦士 二十八 斥候ト為リ出 ヨリ鳥羽五日 父伴左エ門ニ
テ彰義隊ト戦 淀戦争迄出軍 男
武州瘡守稻荷 門前ニテ死ス

小銃第三 湯地次右エ門 同年五月七日 同藩士族
隊戦士 政順 二十四 有馬純熙ト同 ヨリ鳥羽五日 父源助嫡子
ク武州瘡守稻 淀戦争迄出軍
荷門前ニテ死
ス

小銃第三 有吉庄之丞正章 明治元年五月 鹿兒島藩士族
隊戦士 二十八 七日純熙政順 父庄蔵嫡子
ト同ク武州瘡 守稻荷門前ニ
テ死ス

大砲第一 隈元太一左エ門 同年五月十五 明治元年正月 同藩士族
隊戦士 宗善 三十四 日武州上野東 三日伏見鳥羽 実子万太郎

日武州上野東 三日伏見鳥羽 実子万太郎
八幡ノ戦ニ出 破テ戦死 軍

白砲隊 小頭

肝付十郎兼秀

三十三

同年五月十五 同年正月三日 同藩士族
日武州上野東 ヨリ伏見鳥羽 兄伊兵衛弟
八幡戦争迄出 ヲ被リ七月五 軍 日歿ス

小銃第一 伊地知總吉季材 同年五月十五 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 二十 日武州上野東 ヨリ伏見鳥羽 兄喜右エ門五
八幡戦争迄出 弟 死 軍

小銃第一 海江田諸左エ門 同年五月十五 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 網詮 二十 日武州上野東 伏見ヨリ鳥羽 父諸四郎
八幡戦争迄出 死

小銃第一 岩下半之助道英 同年五月十五 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 二十一 日武州上野東 伏見ヨリ鳥羽 父清之丞三男
八幡戦争迄出 死

小銃第一 貴島勇右エ門 同年五月十五 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 兼孝 二十二 日武州上野東 伏見ノ戦ニ創 父強右エ門

八幡ノ役ニ創 ヲ被リ平愈シ
ヲ被リ六月三 テ関東ニ赴ク 日歿ス

小銃第三 小頭見習 同年五月十五 同藩士族
隊 門松喜蔵経輔 日武州上野東 兄門松喜兵衛

二十五 八幡ノ役ニ戦 死

小銃第三 普請方 明治元年五月 明治元年正月 鹿兒島藩士族
隊 床次吉之助正次 十五日武州上 三日伏見ヨリ 兄床次平兵衛

三十三 野東八幡ノ役 鳥羽八幡迄出

ニ創ヲ被リ同 軍 月廿六日歿ス

小銃第三 川北五郎左エ門 同年五月十五 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 陽方 二十二 日武州上野東 伏見ヨリ鳥羽 養子川北松次

八幡戦争迄出 死
ヲ被リ六月三 日歿ス

遊撃第一 野村正八高賀 同年五月十五 同年正月四日 同藩士族
隊戦士 十九 日武州上野東 鳥羽ヨリ八幡 実父

穀山ノ役ニ創 迄出軍 藤野休右エ門
ヲ被リ其夜歿 ス

隊 外 斥候役 同年五月十五 同藩士族

益満休之助行高 養子

二十八 穀山ノ役ニ創 益満宗之助

ヲ被リ同月十
八日歿ス

隊 外 本營斥候役

竹下猪之丞盛徳 同年五月十八

三十六 日武州上野東

穀山ノ役ニ戦 同藩士族
死 兄喜左エ門二
弟嫡子榮太郎
七才

兵員第一 伍長 同年五月十五 同藩士族
隊 唐鎌勘助高義 日武州上野東 実父市来衆中

二十五 穀山ノ役ニ戦
死

兵員第一 奥新五左エ門 同年五月十五 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 良頭 二十五 日武州上野東 伏見ヨリ鳥羽 父市助嫡子厚

穀山役ニ戦死 八幡迄出軍 熊

遊撃第一 襲殺次郎 同年五月十五 同藩実長沼源
隊 隊戦士 日武州上野東 七下僕実郡山

穀山ノ役ニ創 川田村^せ田郷
ヲ被リ終ニ死 名子長五郎二
男第一助

小銃第二 東郷助之丞実明 明治元年五月 明治元年正月 鹿兒島藩士族
隊戦士 二十四 廿五日賊ヲ奥 三日伏見ヨリ

州太田川ニ討 鳥羽八幡迄出
テ死ス 軍

小銃第六 小頭 同年五月廿六 同藩士族
隊 榊山清五郎資記 日賊四方ヨリ 家督

二十八 起リ奥州白川 嫡子勇熊

城ヲ襲フ時防
戦シテ死ス

小銃第五 有馬十郎次純風 同年五月廿六 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 十九 日賊四方ニ起 鳥羽ヨリ五日 父伴左エ門三

リ奥州白川城 淀迄出軍 男

ヲ襲ハントス
ル時湯本棚倉

会津三街道ヲ
応援シ大垣兵
ヲ助ケテ死ス

小銃第五 大迫市郎左エ門 同年五月廿六 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 貞俊 十九 白賊ノ襲来ヲ 鳥羽ヨリ五日 父吉左エ門嫡

奥州白川ニ防 淀迄出軍 子
キ創ヲ被リ同 月廿八日歿ス

小銃第五 伊勢左七郎貞実 同年五月廿六 同年正月三日 同藩士族
隊 二十三 日大迫貞俊ト 鳥羽ヨリ五日 実弟伊勢猛熊

同ク創ヲ被リ 淀迄出軍
六月廿三日歿ス

小銃第五 相良為次郎長盛 同年五月廿六 同年正月三日 同藩士族
隊 二十 之役ニ重創ヲ 負ヒ死ス

小銃第三 浜川彦兵衛景輝 同年六月十二 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 二十三 日奥州白川根 伏見鳥羽八幡 兄彦太夫三弟

田村ニ賊襲来 迄出軍
ノ時尾撃シテ 死ス

小銃第六 小頭見習 同年六月十二 同年正月三日 同藩士族
隊 長束一郎正名 日奥州白川ニ 鳥羽ヨリ五日 父十郎嫡子

賊襲来セシ時 淀迄出軍
尾撃シテ死ス

小銃第六 長野仲之丞祐静 明治元年六月 明治元年正月 鹿兒島藩士族
隊戦士 二十 十二日賊ノ襲 五日鳥羽街道 実兄長野彦祐

来ヲ奥州白川 富ノ森ノ戦ニ
ニ討チ大谷地 創ヲ被リ再出
村攻撃ノ節戦 陣 死ス

遊撃第一 三原周介経俊 同年六月十二 同年正月四日 同藩士族
隊戦士 二十 日奥州白川ニ 鳥羽ヨリ八幡 兄仲之進二男

賊襲来セシ時 迄戦争出軍
戦死

遊撃第一 池田次郎左エ門 同年六月十二 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 政清 二十一 日三原経俊ト 鳥羽ヨリ八幡 母方従弟有馬

同ク奥州白川 迄戦争出陣 常音院
ニ戦死 右同川村彦助

遊撃第一 佐土原新助祐章 同年六月十二 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 十八 日経俊等ト同 鳥羽ヨリ八幡 親類

ク奥州白川ニ 迄戦争出軍 菊池壮之丞
戦ヒ創ヲ被リ 伊地知幸左エ
七月四日歿ス 門

兵具第一 伍長 同年六月十二

同藩士族

隊 黒田運次長次 日奥州白河ノ

父黒田源蔵

二十二 役ニ戦死

私領第一 瀬戸山源兵衛 同年六月十七 同年正月三日 同藩士族

隊 清房 二十 日奥州平湯ヨ 鳥羽ヨリ八幡 鳥津元丸家臣

リ進撃シテ賊 迄戦争 従弟前田渡右

ヲ奥州関田口 エ門 姉智種

名古屋ノ浜ヲ 子田斉因

討時戦死

小荷駄方 彦四郎 同年六月廿二 谷山東塩谷村

夫卒 四十 日奥州岩城平 浦人

ノ戦ニ創ヲ被 子袈裟助

リ七月十一日

歿ス

白砲隊夫 前田丑之助 同年七月廿四 同藩谷山孫右

卒 日奥州棚倉ニ エ門家臣

於テ手負其後

野州宇都宮駅

ニ於テ歿ス

私領第一 上村伝兵衛長信 明治元年六月 明治元年正月 鹿兒島藩士族

隊戦士 二十 廿八日奥州泉 三日鳥羽ヨリ 父上村森右エ

領新田坂ニ戦 八幡迄出軍 門直子無之

死

小銃第十 小頭 同年六月廿八 同年正月三日 同藩士族

二隊 竹内伊左エ門 日賊ヲ奥州泉 鳥羽ヨリ八幡 嫡子竹内市熊

実輝 二十九 領大平山ニ討 迄出軍

時佐土原柳川

ノ兵ヲ新田坂

ニ援ケテ戦死

小銃第十 田中源蔵近信 同年六月廿九 同年正月五日 同藩士族

二隊戦士 二十五 日賊ヲ奥州小 淀ノ戦ニ創ヲ 実兄田中稻助

名浜中ノ作ニ 被リ平癒シテ

討テ死ス 再出陣ス

小銃第五 斥候役 同年七月朔日 同年正月三日 同藩士族

隊 川崎清左エ門 賊奥州白川ヲ 鳥羽ヨリ五日 実弟川崎栄助

祐利 二十二 襲フ時奥州岩 戦争迄出軍 へ継目養子ヲ

瀬郡根田村ニ

テ戦死

命ス

私領第二 正次

同年七月朔日

兄喜三次

隊從卒

三十八

奥州岩城平ノ

戦ニ從ヒ死ス

小銃第十 床次勇四郎正直

同年七月十三

同藩士族

一隊戰士

二十一

日奥州岩城平

攻陷ノ時創ヲ

父五左エ門二

被リ八月廿七

日歿ス

私領第一 財部与八盛利

同年七月十二

同藩士族

隊戰士

二十六

日奥州岩城平

領沼之内町口

兄財部与市

ノ戦ニ創ヲ被

リ八月廿八日

歿ス

小銃第十 吉井甚之丞末友

同年七月廿日

同藩士族

一隊戰士

十九

賊ヲ奥州仁井

町ニ討時戦死

父方伯父吉富

市郎

母方叔父

龜沢甚左エ門

小銃第二 山田十郎有次

明治元年七月

鹿兒島藩士族

隊戰士

十九

廿九日奥州二

本松城攻陷ノ

父山田平治

時戦死

小銃第六 斥候役

同年七月廿九

明治元年正月

隊戰士

日高郷左エ門

日奥州二本松

実父

為徳 二十四

攻陷ノ時先登

富之森ノ戦ニ

ニ進ンテ戦死

モ浅手ヲ被ル

四月廿三日野

州宇都宮ノ役

ニ重創ヲ被リ

其創漸ク癒テ

再出軍

死

小銃第十 井上吉左エ門

同年七月廿九

同藩士族

二隊戰士 良意 二十一

日奥州二本松

兄喜左エ門五

城攻陷ノ時戦

弟

死

小銃第十 川上助十郎親宝

同年七月廿九

同藩士族

二隊戰士

日奥州二本松

父助五郎嫡子

城攻撃ノ時戦

死

兵具第一 藤崎吉次郎供時 同年七月廿九
隊 二十 日奥州二本松
城攻撃ノ時創
ヲ被リ八月十
七日歿ス

兵具第一 満喜祐次郎当厚 同年七月廿九
隊戦士 二十四 日奥州二本松
城攻撃ノ節戦
死

兵具第一 藤崎宗八郎友次 同年七月廿九
隊戦士 二十一 日奥州二本松
城攻撃ノ節戦
死

小銃第二 尾上為八郎正經 同年七月廿九
隊戦死 三十 日奥州二本松
城攻陥ノ時戦
死

同藩士族
養父半左衛門

同藩士族

親類分約諾

奥野次郎

飯田伝之助

親兄弟又ハ身

近キモノ全ナ

シ

同藩士族

突兄園田英助

同藩士族

養子尾上八次

小銃第二 江田喜平次國齋 明治元年七月 明治元年正月 鹿兒島藩士族
隊戦士 二十四 廿七日賊ヲ奥 三日伏見ヨリ 父方叔父
州二本松領糠 鳥羽八幡迄出 江田平介
沢村ニ討時創 軍
ヲ被リ八月十
一日歿ス

小銃第九 伊佐敷金之進 同年八月廿日 同年正月六日 同藩士族
隊戦士 直正 十九 奥州二本松領 八幡戦争出軍 父道与嫡子
玉ノ井ニ於テ
会賊ト戦ヒ死
ス

小荷駄方 次郎

夫卒

三十一

同年八月廿日 同藩
奥州二本松領 指宿農夫
玉ノ井ニ於テ 親 新太郎
戦死

本営従兵 木原藤一郎定政 同年八月廿一 同年正月三日 同藩士族

二十一

日奥州会津領 伏見ヨリ淀八 実弟木原平八
母成峠ニ於テ 幡戦争迄出軍
戦死

兵具隊夫 岩右エ門 同年八月廿一 同藩
卒 日会津領母成 上龜島村中村
峠ノ戦ニ従ヒ 農夫
死ス 実弟九之助

大砲第一 竹内正助 実行 同年八月廿三 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 二十一 日会津ヲ攻撃 伏見ヨリ鳥羽 兄勸助三弟
スル時創ヲ被 八幡ノ戦争迄
リ九月二日歿 出軍
ス

臼砲隊戦 丸田喜右エ門 同年八月廿三 同年正月三日 同藩士族
士 正広 二十 日会津ヲ攻撃 伏見ヨリ鳥羽 兄平右エ門三
スル時戦死 八幡ノ戦争迄 弟
出軍

小銃第一 萩原強之丞兼雄 同年八月廿三 同藩士族
隊戦士 三十一 日会津攻撃ノ 実兄
時戦死 原田助次郎

小銃第五 山之内次郎重虎 明治元年八月 鹿兒島藩士族
隊戦士 二十七 廿三日会津ヲ 実弟
攻撃ノ時創ヲ 山内幸次郎

被リ九月二日 二弟
歿ス 愛甲己之助
親類堀与八郎

小銃第二 奈良原弥六左エ 同年八月廿三 明治元年正月 同藩士族
隊戦士 門 格 三十三 日会津攻撃ノ 三日伏見ヨリ 実兄奈良原長
時戦死 鳥羽八幡迄出 左エ門
軍 直子無之

小銃第六 上原正八郎尚孝 同年八月廿三 同年正月三日 同藩士族
隊戦士 二十三 日会津攻撃ノ 鳥羽ヨリ淀迄 兄藤十郎二弟
時戦死 出軍

小銃第二 小頭見吾 同年八月廿三 同年正月六日 同藩士族
隊 川崎休右エ門 日会津攻撃ノ 八幡戦争浅手 実父仲左エ門
良経 二十四 時創ヲ被リ九 ヲ負
月十九日歿

小銃第六 藤井才之助親和 同年八月廿三 同藩士族
隊戦士 二十五 日会津攻撃ノ 父才助嫡子
時戦死

小銃第六 川上彦八郎直行 同年八月廿三 同年四月廿三 同藩士族
隊戦士 二十五 日会津攻撃ノ 日野州宇都宮 兄九郎右エ門

時戰死

二弟

ノ役ニ輕創ヲ
被リ平癒シテ
再出陣ス

小銃第三 山本中助 寛武

同年八月廿六 同年正月三日 同藩士族

隊戦士

二十一日 日会津若松城 伏見ヨリ鳥羽 実兄吉田泰蔵

攻撃ノ時ニ創

ヲ被リ九月五

日歿ス

小銃第六 園田勇吉 実房

同年八月廿三 同藩士族

隊戦士

二十二 日会津攻撃ノ 兄敬助二弟

時戰死

小銃第十 田村小太郎之福

明治元年八月 鹿兒島藩士族

一隊戦士

二十 廿三日会津攻 父市兵衛嫡子

撃ノ時戰死

小銃第六 中島岩次郎利安

同年八月廿三 同藩士族

隊戦士

二十三 日会津攻撃ノ 父助八三男

時戰死

小銃第十 脇岡藤八 長芳

同年八月廿三 同藩士族

一隊戦士

四十九 日会津攻撃ノ 兄藤左エ門二

時戰死

弟

遊撃第一 米良仲之丞則善

同年八月廿三 同藩士族

隊戦士

十八 日会津攻撃ノ 親菊池五郎右

時戰死

エ門

遊撃第一 猪俣壮七郎利孝

同年八月廿三 同年正月四日 同藩士族

隊戦士

十八 日会津攻撃ノ 鳥羽ヨリ八幡 兄猪右エ門二

時戰死

戦争迄出軍 男

遊撃第一 藤崎勇蔵 公春

同年八月廿三 同年正月四日 同藩士族

隊戦士

二十 日会津攻撃ノ 鳥羽ヨリ八幡 母方叔父

時創ヲ被リ同

戦争迄出軍 森喜右エ門

月廿日歿ス

從弟市米弥七

郎

小銃第一 松崎壮八 貞満

同年八月廿三 同年正月四日 同藩士族

隊戦士

二十一 日会津攻撃ノ 鳥羽ノ戦ニ創 実父小森良助

時戰死

ヲ被リ平癒シ

テ関東ニ赴ク

大砲第三 木幡孝之助

同年八月廿三 奥州二本松

隊従兵

日会津攻撃ノ 玉ノ井村ノ産

時戰死

小銃第三 喜之助 明治元年八月 廿三日会津城 下ニ於テ創ヲ 被リ九月五日 歿ス	小銃第十 小左衛門 同年八月廿三 日会津攻撃ノ 時死ス	小銃第十 富次 同年八月廿三 日会津攻撃ノ 時死ス	小銃第十 藤右工門 同年八月廿三 日会津攻撃ノ 時死ス	小銃第十 勝次郎 同年八月廿三 日会津攻撃ノ 時死ス
隊吉田喜 蔵陪卒				
奥州三春上移 村ノ産	奥州三春上移 村ノ産	奥州三春上移 村ノ産	奥州三春上移 村ノ産	奥州三春上移 村ノ産

小銃第十 林太郎 同年八月廿三 日会津攻撃ノ 時死ス	小銃第十 藤助 同年八月廿三 日会津攻撃ノ 時死ス	小銃第十 藤右工門 同年八月廿三 日会津攻撃ノ 時死ス	小銃第十 伝蔵 明治元年八月 廿三日会津攻 撃ノ時死ス	大砲第一 藤四郎 同年八月廿三 日会津攻撃ノ 時死ス	大砲第一 半右工門 同年八月廿三 日会津攻撃ノ 時死ス
二隊夫卒	二隊夫卒	二隊夫卒	二隊夫卒	二隊夫卒	二隊夫卒
奥州三春斎藤 村和田直治 支配下	奥州三春斎藤 村木場文十郎 支配下	奥州三春斎藤 村木場文十郎 支配下	奥州三春斎藤 村木場文十郎 支配下	奥州二本松玉 ノ井組 江川太郎同村 ノ人	奥州二本松玉 ノ井組 江川太郎同村 ノ人

小銃第五	榮藏	同年八月廿三	河内国丹北郡
隊山下助		日会津攻撃ノ	更池村農民八
右エ門陪		時死ス	十右エ門三男
卒			
大砲第二	弥蔵	同年八月廿三	大□村産
隊付人足		日会津攻撃ノ	
		時死ス	
	岡右エ門	同年八月廿三	野州宇都宮ノ
		日会津攻撃ノ	産
		時死ス	
大砲第一	西田藤助 恒徳	同年八月	明治元年正月 鹿兒島藩士族
大隊戦士	二十二	廿六日会津攻	三日伏見ヨリ 兄西田藤兵衛
		撃ノ時戦死	鳥羽八幡迄出
			軍
大砲第一	山口彦八 中利	同年八月廿六	同年正月三日 同藩士族
大隊戦士	二十四	日会津攻撃ノ	伏見ヨリ鳥羽 夷弟
		時創ヲ被リ九	八幡戦争迄出 山口栄之丞
		月六日歿ス	軍

小銃第二	加藤郷兵衛利經	明治元年八月	明治元年正月 鹿兒島藩士族
隊戦士	二十七	廿六日会津若	三日伏見ヨリ 養子
		松城ヲ攻撃ノ	鳥羽八幡戦争 加藤藤架装
		時戦死	迄出軍
小銃第四	加藤次左エ門	同年八月廿七	同年正月十二 同藩足輕
隊ノ徒兵	政房 四十一	日会津攻撃ノ	番隊ニテ淀八 実父次郎助
		時創ヲ被リ九	八幡戦争迄出軍 嫡子
		月三日歿ス	加藤助次郎
大砲第一	諏訪次郎左エ門	同年八月廿七	同年正月三日 同藩士族
大隊戦士	兼堯 二十五	日会津攻撃ノ	伏見ヨリ鳥羽 実父
		時創ヲ被リ九	八幡戦争迄出 次郎左エ門
		月四日歿ス	軍
私領第三	福永弥七郎祐之	同年九月三日	同藩加治木郷
隊戦士	二十五	会津大内峠ニ	島津兵庫家臣
		戦ヒ創ヲ被リ	親福永筑兵衛
		十一月十一日	
		歿ス	

私領第三 伊藤正助 世賢 同年九月三日

隊戦士 二十九 会津領大内峠

ノ戦ニ創ヲ被

リ同月廿五日

歿ス

同藩加治木郷

島津兵庫家臣

養父弥四郎

私領第三 日高喜次郎為義 同年九月三日

隊戦士 二十五 会津領大内峠

ノ戦ニ創ヲ被

リ同月九日歿

ス

同藩加治木郷

島津兵庫家臣

兄清右エ門二

弟

私領第三 柏原吉左衛門 同年九月八日

隊戦士 真次 二十四 会津領飯寺町

ニ戦ヒ創ヲ被

リ同月廿三日

歿ス

同藩加治木郷

島津兵庫家臣

父吉兵衛二男

私領第三 石原七郎太常心 同年九月八日

隊戦士 二十二 吉左衛門ト同

ク創ヲ被リ同

月廿四日歿ス

同藩加治木郷

島津兵庫家臣

養父休次郎

小銃第六 松蔵 明治元年九月

隊夫卒 十七 九日夜会津天

寧寺口固メ場

ニ於テ死ス

江戸本所ノ産

私領第三 甚太郎 同年九月五日

隊夫卒 二十三 会津飯寺村ノ

戦ニ死ス

鹿兒島藩

加治木

木田村平門農

夫 父鎮太郎

私領第一 福留嘉右エ門 明治元年正月

隊戦士 經濟 二十三 日会津河原町

ニ戦死

八幡戦争迄出

軍 門直子無之

同藩都ノ城

島津元丸家臣

親福留溜右エ

私領第一 向井納四郎盛常 同年九月十四

隊戦士 三十四 日会津河原町

ノ戦ニ創ヲ被

リ十一月七日

歿ス

同藩都ノ城

島津元丸家臣

親向井善右エ

門

私領第一 鮫島四郎兵衛 同年九月十四 同年正月三日 同藩

隊戰士 宗武 二十五 日会津河原町 鳥羽ヨリ八幡 喜人多門家臣

ノ戦ニ創ヲ被 戦争迄出軍 親鮫島喜十郎

リ十月十七日

歿ス

私領第三 米良清次郎秀綱 同年九月十四 同藩

隊戰士 二十三 日会津河原町 島津兵庫家臣

口ニ於テ戦死 父寿弥嫡子

外城第四 知識勘右工門 同年九月十四 同年正月三日 同藩阿久根郷

隊戰士 種利 二十五 日会津三ノ丸 伏見ヨリ六日 士族

後外堀土手ニ 八幡戦争迄出 親知識勘兵衛

テ創ヲ被リ同 軍

月廿五日歿ス

私領第四 市藏 同年九月十四 同年正月三日 同藩知覽□

隊夫卒 二十四 日会津河原町 伏見ヨリ鳥羽 農夫

ニ於テ戦死 戦争迄出軍 父清右工門

子清一郎

外城第四 龜川与兵衛時重 明治元年九月 明治元年正月 鹿兒島藩

隊戰士 三十三 十五日晚会津 二日伏見ヨリ 出水郷士族

城内板垣口固 六日八幡戦争 家督

場ニテ戦死 迄出軍 嫡子正八郎

小銃第七 鮫島源助 常欽 同年九月十五 同年正月六日 同藩士族

隊戰士 二十六 日会津ノ内青 八幡戦争出軍 父次郎左工門

木村ニ於テ戦 嫡子

死

外城第二 十郎 同年九月十九 同藩加世田郷

隊卒玉藥 三十二 日会津ニ於テ 津貫村徳留門

持夫 創ヲ被リ死ス 名子亡与左衛

門男子

弟直次郎

政右衛門 同年九月十七 奥州白川郡

日若松城ニ於 金山村

テ戦死

明治元年

第二号

鹿児島藩

会津領

之戦争

出羽	豊島	川辺	椿川村	越沢	小俣村	米沢村	島村	寒河江
白岩	関川村	有合村	寺沢村	花館村	四ッ屋	上淀川	荏和野	
陸奥	御蔵入村	向坂	天屋	片門				
岩屋村	盛立峠	柳原町	福井村	月岡村	曲淵	新発田	村松	加茂口
小松村	五泉	田川内村	石閭口	鼠ヶ関				
越後	大黒村	盛立峠	枋久保峠	久田村	宿島村	十二漏村	押切	川辺村
帯織	片桐村	堀溝村	島崎	鹿熊川	筒場村	下条村	川台村	
小出島	片貝	椎谷	榎木峠	長岡	杉沢村	小栗山	与板	

隊号等級	官名姓名年齢	死没年月日 何地名墓所	履歴戦功	本貫属族国 郡郷里親族
外城第三 隊戦士	児玉清兵衛実堅 三十五	明治元年閏四 月廿七日越後	明治元年正月 三日鳥羽ヨリ 市来士族	鹿兒島藩 市来士族
	国小出島ニ於 テ戦死	六日八幡戦争	養父岱恕 迄出軍	
外城第三 隊戦士	野崎半左エ門 兼次 三十六	同年閏四月廿 七日越後国小 出島ニ於テ戦 死	同 同断	同藩市来士族 兄喜右エ門弟
外城第三 隊	上村珣樹 清義 二十八	同年閏四月廿 七日越後国小 島ノ戦ニ創ヲ 被リ終ニ歿ス	同 同断	同藩市来士族 家督 養子良助
外城第三 隊	佐藤林蔵 隆明 三十	同年閏四月廿 七日越後国小 出島ニ於テ戦 死	同 同断	同藩 伊集院士族 養父加左エ門

外城第三 隊	小頭 松崎勘助 貞範 二十七	明治元年閏四 月廿七日越後	明治元年正月 三日鳥羽ヨリ 伊集院士族	鹿兒島藩
外城第三 隊戦士	児玉源兵衛実光 四十八	同年閏四月廿 七日越後国小 出島ノ戦ニ創 ヲ被リ終ニ歿 ス	同 同断	同藩 串木野士族 実兄 児玉八 郎右エ門
外城第三 隊	小頭 長静吾連雄 三十一	同年閏四月廿 七日越後国小 出島ニ於テ戦 死	同 同断	同藩 串木野士族 養子八次郎
外城第三 隊戦士	臼井道哉 常德 三十六	同年閏四月廿 七日越後国小 出島ニ於テ戦 死	同 同断	同藩 串木野士族 養子喜七郎

外城第三 熊吉

同年五月三日

越後国小千谷

隊夫卒

二十一

越後国片貝ノ

農民

戦ニ創ヲ被リ
歿ス

小銃第十 松元新左エ門

同年五月六日

鹿兒島藩士族

隊戦士

武柄

三十七

越後国椎谷荒

家督

浜村ニ於テ戦
死

嫡子直太郎

遊撃第二 吉田喜右エ門

同年五月十一

明治元年正月

同藩士族

隊戦士

清猛

十七

日越後国榎木

四日鳥羽ヨリ

父平左エ門四

峠進撃ノ時創
ヲ被リ同十三

五日淀戦争迄
出軍

男

日歿ス

遊撃第二 木村韜二郎時光

同年五月十一

同年正月戦争

同藩士族

隊戦士

二十

日越後国榎木

後入隊

養子寿之進

峠進撃ノ時戦
死

遊撃第二 久保武七 之造

明治元年五月

明治元年正月 鹿兒島藩士族

隊戦士

二十

十一日越後国

四日鳥羽ヨリ

二弟豪助

榎木峠進撃ノ
時創ヲ被リ八

五日淀戦争迄
出軍

月二日歿ス

遊撃第二 国生六郎 篤行

同年五月十一

同

同藩士族

隊戦士

二十七

日越後国榎木

実兄

峠進撃ノ時創
ヲ被リ同廿九

山田四郎助

日歿ス

遊撃第二 田中米右エ門

同年五月十三

同年正月戦争

同藩士族

隊戦士

国俊

三十四

日越後国榎木

後入隊

父次郎左エ門

峠進撃ノ時創
ヲ被リ七月廿

三男
嫡子五左エ門

六日歿ス

遊撃第二 有川彦太郎則義

同年五月十三

同年正月四日

同藩士族

隊戦士

十八

日越後国榎木

鳥羽ヨリ五日

父斎之丞嫡子

峠進撃ノ時創
ヲ被リ七月三

淀戦争迄出軍

日歿ス

遊撃第二 宮内藤左エ門 同年五月十三 同 同断 同藩士族
隊戦士 安収 二十二 日越後国榎木 二弟雄蔵へ継
目養子ヲ命ズ

峠進撃ノ時創
ヲ被リ七月十
日歿ス

遊撃第二 柳善之助 景次 同年五月十三 同 同断 同藩士族
隊戦士 十七 日越後国榎木 兄五郎兵衛三
弟

峠進撃ノ時創
ヲ被リ六月十
九日歿ス

遊撃第二 堀添平左エ門 同年五月十三 明治元年正月 同藩士族
隊戦士 篤清 二十 日越後国榎木 戦争後入隊 父休左エ門嫡
子

峠進撃ノ時戦
死

外城第三 斥候役 同年五月十九 同年正月三日 同藩
隊戦士 阿多新吾 実行 日越後国長岡 鳥羽ヨリ六口 伊集院士族

二十二 城攻陥ノ時苦 八幡戦争迄出 兄弟四郎弟
戦シテ死 軍

外城第四 浜田藤介 秀之 明治元年五月 明治元年正月 鹿兒島藩
隊戦士 二十一 十九日越後国 三日伏見ヨリ 阿久根士族

長岡城攻陥ノ 六日八幡戦争 兄市左エ門
時戦死 迄出軍

外城第三 市太郎 同年五月十九 同藩伊集院神
隊夫卒 二十七 日越後国長岡 殿村桃山門農
民

ノ戦ニ創ヲ被
リ七月廿九日
歿ス 子袈裟次郎

外城第三 有馬嘉兵衛角照 同年五月廿四 同年正月三日 同藩
隊 二十三 日越後国長岡 鳥羽ヨリ六日 伊集院士族

領杉沢村ニ於 八幡戦争迄出 父直右エ門二
テ戦死 軍 男

外城第三 伍長 同年五月廿四 同 同断 同藩
隊 石神為兵衛良安 日越後国長岡 伊集院士族

三十五 領杉沢村ノ戦 父良庵嫡子
ニ創ヲ被リ六 嫡子嘉平次
月十四日歿ス

外城第四 斥候役 同年五月廿六 明治元年正月 同藩

隊 麦生田有誠兼養 日越後國小栗 三日伏見ヨリ 出水郷士族

二十八 山ニ於テ戦死 六日八幡戦争 養子庄次郎

迄出軍

小銃第十 丸田助四郎実則 同年五月廿六 同藩士族

隊戦士 二十一 日越後國小栗 父與右エ門三

山ニ於テ戦死 男

小銃第十 山下弥四郎兼行 同年五月廿六 同藩士族

隊戦士 十八 日越後國小栗 父富雲四男

山ノ戦ニ創ヲ

被リ六月四日

歿ス

外城第十 池田半之助正康 同年五月廿六 明治元年正月 同藩

隊戦士 二十二 日越後國小栗 三日鳥羽ヨリ 串木野士族

山ニ於テ戦死 六日八幡戦争 叔父肝付源左

迄出軍 エ門從弟中尾

喜兵衛

外城第四 河南武右エ門 明治元年五月 明治元年正月 鹿兒島藩

隊 亮直 二十七 廿六日越後国 三日伏見ヨリ 阿久根士族

小栗山ニ於テ 六日八幡戦争 父市郎左エ門

戦死 迄出軍

外城第四 伍長 同年五月廿六 同 同断 同藩

隊 田中栄右エ門 日越後國小栗 阿久根士族

常長 二十八 山ノ戦ニ創ヲ 親五右エ門

被リ六月十五 嫡子矢之助

日歿ス

外城第四 四役場 同年五月廿六 同 同断 同藩

隊 末田諸右エ門 日越後國小栗 阿久根士族

実苞 三十二 山ノ戦ニ創ヲ 家督

被リ六月廿七 嫡子孫八郎

日歿ス

外城第四 吉太 同年五月廿六 同藩阿久根鶴

隊夫卒 二十八 日越後國小栗 川内村本門

山ノ戦ニ創ヲ 農民

被リ六月十一 叔父伝八

日歿ス

遊撃第二 田中道賢 近寛 同年五月廿八 明治元年正月 同藩士族
隊戦士 二十七 日越後国与板 四日鳥羽ヨリ 兄一郎三弟

塩入峠ニ於テ 五日淀戦争迄
戦死 出軍

遊撃第二 和田兼左エ門 同年五月廿八 同 同断 同藩士族
隊戦士 正容 十九 日越後国与板 兄乗太郎弟

口ニ於テ戦死

遊撃第二 伝次郎 同年五月廿九 同藩
隊水夫 日越後国帯織 渋谷休阿弥

村ニ於テ戦死 下人

遊撃第二 政次郎 同年五月廿九 同藩
隊卒 三十 日越後国帯織 西郷半兵衛

村ノ戦ニ從ヒ 下人

創ヲ被リ八月 兄休太郎
廿三日歿ス

遊撃第二 太鼓役 明治元年五月 明治元年正月 鹿兒島藩士族
隊 竹原佐二郎利愛 晦日越後国片 四日鳥羽ヨリ 父弥右エ門嫡

十七 桐村ニ於テ戦 五日淀戦争迄 子
死 出軍

遊撃第二 本村彦二 貞温 同年五月晦日 同 同断 同藩士族
隊戦士 二十 越後国片桐村 父甚左エ門嫡

ノ戦ニ創ヲ被 子
リ六月朔日没

ス

小銃第十 一代士 同年六月朔日 同藩士族
隊戦士 矢田林之丞清綱 越後国長岡領 親類

二十五 堀溝村山中ニ 敷根竜右エ門
於テ戦死

小銃第十 半助 同年六月朔日 同藩
隊卒 越後国長岡領 伊集院神川

堀溝山中ノ戦 農民

ニ從ヒ死ス 父小次郎

徴兵隊小 川村宗之丞景範 同年六月二日 同藩士族
銃第八隊 十九 越後国三島郡 父新左エ門

島崎ノ難戦ニ

傷キテ同十三

日歿ス

徵兵隊小	斥候役	同年六月二日	同藩士族
銃第八隊	榎本新十郎貞昌	越後国島崎ニ 於テ戦死	叔父 榎本十郎
徵兵隊小	旗役	同年六月二日	同藩士族
銃第八隊	吉利正兵衛用周	越後国島崎ノ 戦ニ傷キテ七 月四日歿ス	養子半二郎
徵兵隊小	斥候役	同年六月二日	同藩士族
銃第八隊	高柳幸左工門	越後国島崎ノ 戦ニ傷キテ同 廿日歿ス	從弟 高柳幸之丞 森源吾
行次	三十六		
從兵徵兵	西田新蔵 貞次	明治元年六月 明治元年正月	鹿兒島藩
隊	四十四	二日越後国島 崎ノ戦ニ創ヲ 被リ同十日歿 ス	父九兵衛五男
外城第三	中村源右工門	同年六月四日	同藩
隊戦士	尚則 四十	越後国長岡領 鳥羽ヨリ六日	伊集院士族
		鹿熊川ニ於テ 八幡戦争迄出 軍	父喜兵衛嫡子 嫡子源之助

外城第三	直左工門	同年六月四日	同藩市来伊作
隊卒	三十九	越後国長岡領 鹿熊川ノ戦ニ 從ヒ創ヲ被リ 同廿七日歿ス	田村新屋敷農 民 子 新太
外城第三	有馬十九郎高規	同年六月五日	同藩
隊戦士	十九	越後国長岡領 三日鳥羽ヨリ 鹿熊川ニ於テ 六日八幡戦争 迄出軍	伊集院士族 兄源市三弟
外城第三	大内田玄中通故	同年六月七日	同伊集院士族
隊戦士	二十七	越後国長岡領 筒場村ニ於テ 戦死	父才藏嫡子
外城第三	宮之原弥兵衛	同年六月七日	同藩
隊戦士	茂次 四十四	越後国長岡領 筒場村ニ於テ 戦死	串木野士族 父清左工門嫡 子 嫡子弥之助

外城第三 徳松 同年六月七日 越後国浦佐ノ
隊夫卒 越後国長岡領 大崎村ノ産

筒場村ニ於テ
戦死

外城第三 熊吉 同年六月七日 鹿兒島藩
隊卒 越後国長岡領 市来湊浜人
筒場村ノ軍ニ 父次郎

従ヒ死ス

外城第三 徳四郎 明治元年六月 越後国魚沼郡
隊夫卒 七日越後国古 大崎村ノ産
志郡下条村ニ

於テ戦死

外城第三 川添庄太郎武義 明治元年正月 鹿兒島藩
隊戦士 二十二 越後国長岡領 三日鳥羽ヨリ 申木野士族
筒場村ニ於テ 六日八幡戦争 父垂八郎二男

戦死 迄出軍

外城第三 永井宗七郎利重 同年六月十日 同 同断 同藩市来士族
隊戦士 二十六 越後国長岡領 養父源蔵
筒場村ニ於テ

戦死

外城第三 八太郎 同年六月十日 同藩市来士族
隊卒 十九 越後国長岡領 永田五兵衛僕
筒場村ノ軍ニ 父吉之丞

従ヒ死ス

小銃第十 治左エ門 同年六月十日 越後国高田領
隊夫卒 越後国長岡領 筒場村ニ於テ

戦死

小銃第十 八太郎 同年六月十日 越後国高田領
隊夫卒 越後国長岡領 筒場村ニ於テ

戦死

外城第三 辰五郎 同年六月十日 越後国高田領
隊夫卒 越後国長岡領 筒場村ニ於テ

戦死

夫卒 市次郎 同年六月九日 在所不知
越後国長岡ニ 於テ創ヲ被リ
九月四日歿ス

外城第四 堀切喜介 正規 明治元年六月 明治元年正月 鹿兒島藩
隊戦士 十九 十四日越後国 三日伏見ヨリ 阿久根士族

長岡領川台村 六日八幡戦争 家督
ニ於テ戦死 迄出軍 嫡子亀太郎

小銃第十 伊東彦兵衛祐行 同年六月十四 同藩士族
隊戦士 二十 日越後国長岡 兄弥八郎三弟

領大黒村ノ防
戦ニ創ヲ被リ
遂ニ歿ス

小銃第十 山田助左エ門 同年六月十四 同藩士族
隊戦士 有政 二十一 日越後国長岡 実弟山田松次

領大黒村ニ於
テ戦死
ヲ命ス

小銃第十 吉田二次郎清澄 同年六月十四 同藩士族
隊戦士 二十 日越後国長岡 父彦兵衛二男

領大黒村ニ於
テ戦死

小銃第十 児玉休五郎実友 同年六月十四 同藩士族
隊戦士 十六 日越後国長岡 父善助五男

領大黒村ニ於
テ戦死

小銃第十 糟松喜平太盛安 同年六月十四 同藩士族
隊戦士 二十一 日越後国長岡 次弟佐左エ門

領大黒村ニ於
テ戦死

小銃第十 小頭見習 同年六月十四 同藩士族
隊戦士 村橋宗之丞朗容 日越後国長岡 実弟仙之丞

二十六 領大黒村ノ戦

ニ創ヲ被リ同
廿六日歿ス

大砲第二 久保甚兵衛之敬 同年六月十四 明治元年正月 同藩士族
隊戦士 二十三 日越後国長岡 三日伏見ヨリ 姉智

領筒場村ノ戦 鳥羽六日八幡 山路弥兵衛
ニ創ヲ被リ同 戦争迄出軍 伯父山口助八
廿一日歿ス

小銃第十 龜沢宗八郎安純 明治元年六月
隊戦士 十八 十四日越後国
鹿兒島藩士族
父助八郎嫡子

長岡領筒場村
ノ砲台ニ賊襲
来スル時固守
防戦シテ死ス

外城第三 伍長 同年六月十四 明治元年正月 同藩市来士族
隊 岩重佐兵衛政隆 日越後国長岡 三日鳥羽ヨリ 嫡子重五郎

三十九
領筒場村ニ於
テ戦死 迄出軍
六日八幡戦争

外城第三 児玉次郎兵衛 同年六月十四 同 同藩
隊戦士 実通 三十八 日越後国長岡 申木野士族

領筒場村ノ戦
ニ重創ヲ被リ 家督
嫡子宗一郎
テ歿ス

外城第三 伍長 同年六月十四 同 同藩
隊 本田吉左エ門親正 日越後国長岡 父元右エ門嫡
十六 領筒場村砲台
ノ戦ニ創ヲ被
リテ歿ス

大砲第二 仁蔵 同年六月十四 同藩出水江内
隊卒 二十四 日越後国長岡 村木牟礼門
農民

領筒場村ノ戦
ニ創ヲ被リ九
月三日歿ス 父利右エ門

小銃第十 神戸休兵衛友次 同年六月廿一 同藩士族
隊戦士 二十一 日越後国長岡 父庄太夫二男

領筒場村ノ砲
台ニ於テ戦死

小銃第十 平瀬友次郎武憲 同年六月廿一 同藩士族
隊戦士 二十 日越後国長岡 父八郎兵衛嫡
子

領筒場村ノ戦
ニ重創ヲ被リ
同廿五日歿ス

遊撃第二 武元昌蔵 清孝 同年六月廿一 明治元年正月 同藩士族
隊戦士 三十三 日越後国長岡 四日鳥羽ヨリ 実兄
領筒場村ノ戦 五日淀戦争迄 尾上新兵衛
ニ創ヲ被リ九 出軍
月八日歿ス

小銃第十 石原金次郎周春 明治元年六月 鹿兒島藩士族
隊戦士 十九 廿一日越後国 父渡右エ門二

長岡領福井村

男

ヨリ大黒村へ

賊襲来ノ時戦

死

小銃第七 酒匂孫一郎景賢 同年六月廿九 明治元年正月 同藩士族

隊戦士 二十五 日越後国長岡 六日八幡戦争 父孫八郎嫡子

領大黒村砲台

出軍

嫡子岩熊

ノ戦ニ創ヲ被

リ九月十四日

歿ス

小銃第十 長野仲之介祐嗽 同年七月朔日 越後国妙見村 同藩士族

隊戦士 二十 越後国盛立峠 二於テ創ヲ被 父仲右エ門嫡

ヨリ進撃スル

リ平癒ノ上再

子

時荷比村ニ於

出軍ス

テ戦死

外城第四 春田周右エ門 同年七月朔日 明治元年正月 同藩

隊戦士 房次 二十五 越後国枋久保 三日伏見ヨリ 阿久根士族

峠ヨリ進撃ス 六日八幡戦争 兄甚八

ル時土ヶ谷峠 迄出軍

ノ戦ニ創ヲ被

リ九月十三日

歿ス

小銃第七 税所正吉 敦風 同年七月二日 同年正月六日 同藩士族

隊戦士 十九 越後国長岡領 八幡戦争迄出 叔父竹兵衛

大黒村ノ砲台 軍

ニ賊大挙シテ

襲来スル時防

戦尾撃シテ死

ス

小銃第七 堀之内平八清次 同年七月二日 同 同藩士族

隊戦士 十八 越後国長岡領 父半左エ門嫡

大黒村ノ砲台

子

ニ於テ戦死

小銃第七 久木田清次郎 同年七月二日 同 同藩士族

隊戦士 直道 二十四 越後国長岡領 父藤右エ門二

大黒村ノ砲台

男

ニ於テ戦死

小銃第七 池田猪之助道直 同年七月二日 同 同断 同藩士族

隊戦士 十九 越後国長岡領 叔父

大黒村ノ砲台 有馬十右エ門

ニ創ヲ被リ同 叔父

十六日歿ス 仁礼半左エ門

小銃第七 二宮藤次郎宗政 明治元年七月 明治元年正月 鹿兒島藩士族

隊戦士 二十 二日越後国長 六日八幡戦争 父藤右エ門二

阿領大黒村ノ 出軍 男

砲台ニ創ヲ被

リ十月十七日

歿ス

小銃第七 白石吉左エ門 同年七月二日 同 同断 同藩士族

隊戦士 方正 十九 越後国長岡領 兄奎右エ門二

大黒村ノ砲台 弟

ニ於テ戦死

小銃第七 隈元八次郎道直 同年七月二日 同 同断 同藩士族

隊戦士 二十三 越後国長岡領 父猪之助

大黒村ノ砲台

ニ於テ戦死

大砲第二 東市 同年七月四日 同藩阿久根

隊卒 二十四 越後国筒場村 山下村池川門

ノ戦ニ死ス 農民

父□四郎

外城第二 川越邑二 俊敦 同年七月八日 明治元年正月 同藩

隊戦士 二十四 越後国筒場村 三日鳥羽ヨリ 加世田上族

ノ砲台ニ重創 六日八幡戦争

ヲ被リ其夜歿 迄出軍

ス

外城第一 日高源左エ門 同年七月廿二 同藩高岡士族

隊戦士 正武 四十六 日越後国久田 父源太左エ門

村ニ於テ戦死 嫡子

小銃第十 平田助八 篤国 同年七月廿四 同藩士族

四隊戦士 三十六 日夜越後国長 嫡子卯吉

岡難戦ノ時城

中病院ニ於テ

歿ス

小銃第十 本田郷右エ門 同年七月廿四
四隊戦士 親咬 三十一 日夜越後国長岡難戦ノ時城中病院ニ在リテ身体切迫自殺ス

同藩士族
嫡子鶴熊

小銃第十 小頭 明治元年七月廿四日夜賊俄
奥山左八郎政治 十九 二大挙シテ越後国長岡城ヲ奪ヒ復スルノ時城中病院ニ在テ戦死

子

鹿兒島藩士族
父藤左エ門嫡子

小銃第十 八太郎 同年七月廿四
隊従卒 二十 日越後国長岡領大黒村ノ戦ニ從ヒ死ス

同藩川辺郡山
田中山田村
農民黒島原周
右エ門年季抱
農民権太子

小銃第十 町田清次郎国次 同年七月廿五
三隊戦士 二十二 日夜越後国福島村水門口ノ戦ニ創ヲ被リ八月廿九日歿ス

同藩士族
実父
町田直左エ門

小銃第十 小頭 同年七月廿五
三隊 川上休右エ門 日夜越後国福島村水門口砲台ヨリ人数引上ノ時敗戦ニ死ス

同藩士族
弟清輔

芳郷 二十六

大砲第二 牧野七之丞惟教 同年七月廿五 明治元年正月 同藩士族
隊戦士 二十 日越後国三島 三日伏見ヨリ 実兄
郡長岡十二潟 鳥羽六日八幡 山本勘兵衛
村ニ於テ戦死 戦争迄出軍

大砲第四 医師 同年七月廿五
重信友輔 安節 日越後国長岡城難戦ノ時城中病院ニ在テ戦死

同藩士族
養父安斉

二十五

大砲第二 普請方

同年七月廿五 同年正月三日 同藩士族

隊 竹内直太郎実行

日越後国長岡 伏見ヨリ鳥羽 父直助嫡子

三十六

城難戦ノ時信 六日八幡戦争
濃川渡ニ於テ 迄出軍

創ヲ被リ八月
三日歿ス

小銃第七 伊勢弥一郎貞夫

同年七月廿五 同年正月六日 同藩士族

隊戦士 二十三

日越後国長岡 八幡戦争出軍 父矢太郎嫡子

城口ノ敗戦ニ
死ス

小銃第七 久米田雄右工門

明治元年七月 明治元年正月 鹿兒島藩士族

隊戦士 泰通 十七

廿五日越後国 六日八幡戦争 実兄

長岡ノ敗戦ニ 出軍 吉田泰蔵
歿ス

小銃第七 千田壮八郎貞吉

同年七月廿五 同 同断 同藩士族

隊戦士 三十三

日賊大挙シテ 兄壮右工門四
我砲台ヲ破リ 弟

長岡城ヲ奪ヒ 官軍敗潰ニ及
フ時戦死

小銃第七 甲斐利兵衛実次 同年七月廿五 同 同断

同藩士族

隊戦士 十九

父助八三男

日越後国長岡
ノ敗戦ニ死ス

小銃第七 丸田弥七左工門 同年七月廿五 同 同断

同藩士族

隊戦士 兼礼 十八

父直子無之

日越後国長岡
ノ敗戦ニ死ス

小銃第七 龜山孫四郎国尊 同年七月廿五 同 同断

同藩士族

隊戦士 十八

実弟龜山小吉

日越後国長岡
ノ敗戦ニ死ス

小銃第七 宮下市助 盛允 同年七月廿五 同 同断

同藩士族

隊戦士 二十一

実父高山一郎

日越後国長岡
ノ敗戦ニ死ス

小銃第十 隈崎宗之丞盛之 同年七月廿五 同 同断

同藩士族

隊戦士 十八

父喜左工門嫡

日越後国長岡
ノ敗戦ニ死ス

子

小銃第十 有川庄兵衛貞次 同年七月廿五 同藩士族
隊戦士 三十四 日越後国長岡 六弟
ノ敗戦ニ死ス 有川幸之丞

小銃第十 伊地知休左エ門 明治元年七月 越後国長岡領 鹿兒島藩士族
隊戦士 季長 十九 廿五日越後国 妙見村ノ戦ニ 父四郎兵衛二
長岡敗戦ノ時 創ヲ被リ再出 男
創ヲ被リ八月 戦ス
九日歿ス

小銃第十 川村榮之助種利 同年七月廿五 五月六日荒浜 同藩士族
隊戦士 二十二 日越後国長岡 ノ戦ニ創ヲ被 父方叔父
ノ戦ニ創ヲ被 リ再出戦 奥山平右エ門
リ八月六日歿 彌賀周右エ門
ス 姉嬢
市来宗七

小銃第十 医師 同年七月廿五 同藩士族
四隊戦士 新村謙益 実則 日越後国長岡 父謙齋嫡子
四十二 病院ニ於テ戦 死

外城第四 税所孫太郎篤信 同年七月廿五 明治元年正月 同藩
隊戦士 二十 日越後国長岡 三日伏見ヨリ 出水郷士族
ノ難戦ニ死ス 六日八幡戦争 父五兵衛尊敬
迄出軍

外城第四 四役場 同年七月廿五 同 同藩
隊 花北宗右エ門 日越後国長岡 出水郷士族
経国 三十七 難戦ノ時創ヲ 父市郎左エ門
被リ八月二日 経之
歿ス

外城第四 酒匂雄七 景行 同年七月廿五 同 同藩
隊戦士 十九 日越後国長岡 出水郷士族
城下ノ難戦ニ 叔父徳留角次
死ス 従弟八重尾惣
右エ門

番兵第二 海老原直一為足 同年七月廿五 同藩
隊戦士 二十二 日越後国長岡 高岡士族
ノ難戦ニ死ス 実父良右エ門

番兵第二 宮内静次 茂直 同年五月廿五 同藩
隊戦士 十八 日越後国長岡 長嶋士族
ノ戦ニ創ヲ被 父泰蔵四男
リ八月三日歿
ス

番兵第二 村原宗太郎貞長 明治元年七月 同藩
隊戦士 二十五 廿五日越後国 志布志士族
長岡難戦ノ時 父宗十郎嫡子
城際ニ於テ戦
死

徴兵隊小 伊地知市左エ門 同年七月廿五 同藩
銃第八隊 季次 二十五 日越後国長岡 士族
戦兵 敗戦時与板台 父仲左エ門嫡
場ノ戦ニ創ヲ 子
被リ同廿七日
歿ス

外城第二 宮下喜蔵 友隆 同年七月廿五 明治元年正月 同藩
隊戦士 二十三 日越後国長岡 三日鳥羽ヨリ 伊作士族
領筒場村台場 六日八幡戦争 父喜左エ門嫡
ノ戦ニ創ヲ被 逸出軍 子

リ同廿七日歿
ス

本宮従兵 永井佐太郎利経 同年七月廿五 同年正月五日 同藩
二十五 日越後国長岡 淀ヨリ六日八 士族
ニ於テ戦死 幡戦争逸出軍 父五兵衛嫡子

大砲第二 順吉 同年七月廿五 越後国高田領
隊卒 日越後国長岡 農民
ニ於テ戦死

外城第二 小頭 同年七月廿五 明治元年正月 鹿兒島藩
隊戦士 西剛右エ門長庸 日越後国蒲原 六日橋本ノ戦 加世田士族
二十一 郡押切台場ヲ 二創ヲ被リ平 父六郎左エ門
乗取ノ時苦戦 癒ノ上再出軍
シテ死ス

外城第二 山之内半蔵紹用 同年七月廿五 同年正月三日 同藩
隊戦士 二十六 日越後国押切 鳥羽ヨリ六日 伊作士族
台場ノ戦ニ創 八幡戦争逸出 二弟清之進
ヲ被リ九月十 軍
二日歿ス

外城第二 松元彦右エ門 同年七月廿五 同 同断 同藩
隊戦士 政次 三十二 日越後国押切 伊作士族

台場ノ戦ニ創 父七左エ門嫡
ヲ被リ八月十 子
八日歿ス

外城第二 田尻伊兵衛種武 明治元年七月 明治元年正月 鹿兒島藩
隊戦士 四十八 廿五日越後国 三日鳥羽ヨリ 伊作士族

押切台場ノ戦 六日八幡戦争 嫡子宗太郎
ニ創ヲ被リ八 迄出軍
月十六日歿ス

外城第二 川越正左エ門 同年七月廿五 同 同断 同藩
隊戦士 重真 二十三 日越後国押切 伊作士族

台場ノ戦ニ創 父正太夫嫡子
ヲ被リ八月九 日歿ス

外城第二 黒川戸右衛門 同年七月廿五 同 同断
隊戦士 真次 二十三 日越後国押切

台場ノ戦ニ創 父仲右エ門三
ヲ被リ八月九 男
日歿ス

外城第二 上原周左エ門 同年七月廿五 同 同断 同藩
隊戦士 尚則 二十七 日越後国押切 士族

台場ニ於テ戦 父藤兵衛嫡子
死

外城第二 川村源七 紀通 同年七月廿五 同 同断 同藩
隊戦士 二十一 日越後国押切 士族

台場ニ於テ戦 父源太左エ門
死 嫡子

外城第二 日渡十次郎清堅 同年七月廿五 同 同断 同藩
隊戦士 二十四 日越後国押切 士族

台場ニ於テ戦 実父
死 松崎次兵衛

外城第二 泊庄之助 重昌 同年七月廿五 同 同断 同藩士族
隊戦士 二十三 日越後国押切 父次郎右エ門

台場ニ於テ戦 嫡子
死

外城第二 木場良右エ門 同年七月廿五 同斷
隊戰士 貞充 二十三 日越後国押切 伊作士族

台場ニ於テ戦死 父源左エ門嫡子
嫡子才助

外城第二 山元城之助泰範 明治元年七月 明治元年正月 鹿兒島藩
隊戰士 十七 廿五日越後国 三日島羽ヨリ 伊作士族

押切台場ニ於テ戦死ス 六日八幡戦争 父勲兵衛嫡子
迄出軍

番兵第二 平山直左エ門 同年七月廿五 同藩
隊 武揚 三十七 日越後国長岡 谷山士族

ノ戦ニ創ヲ被リ八月十八日 嫡子藤一
歿ス

小銃第十 遠矢勇吉 同年七月廿五 同藩
四隊夫卒 十九 日越後国長岡 上山郷兵衛從卒

領川辺台場ノ戦ニ創ヲ被リ 実ハ町田民部
八月九日歿ス 家臣 父善左エ門

外城第二 玉葉持夫 同年七月廿五 同藩伊作中原
隊卒 助次郎 日越後国押切 村加治屋門農

二十 台場ノ戦ニ死ス 民 父権四郎

小銃第十 川原仲兵衛貞徳 同年七月廿五 同藩士族
四隊戰士 四十一 日越後国長岡 兄川原遍淨院弟

領川辺村ニ於テ戦死 嫡子新太郎

小銃第十 松元甚七 利伸 同年七月廿五 同藩
四隊戰士 三十四 日越後国長岡 士族

領川辺村ニ於テ戦死 嫡子慶太郎

隊外 教頭ニテ諸隊ノ 同年七月廿五 同藩

主率 日越後国長岡 士族
中原猶助 尚勇 領川辺村ノ難 嫡子辰太郎

三十七 戦ニ重傷ヲ被リ八月七日歿ス

小銃第十 島山鈔八郎兼宝 同年七月廿九
四隊戦士 二十 日越後国下条

同藩
士族 嫡子鈔之丞

村ニ於テ官軍
大擧シテ賊ヲ
討ノ時創ヲ被
リ八月朔日歿
ス

番兵第二 松田英之助為英 明治元年七月
隊戦士 二十二 廿九日越後国

鹿兒島藩
谷山士族 兄平七

筒場村ノ戦ニ
創ヲ被リ八月
十四日歿ス

小銃第七 田原与一郎政正 同年七月廿九
隊戦士 十八 日越後国妙見

明治元年正月 同藩
六日八幡戦争 士族

村ヨリ進撃シ
出軍
テ長岡城ヲ再
ヒ回復ノ時柳
原町ノ苦戦ニ
死ス

母方叔父
税所六郎兵衛
従弟同家
田原清左エ門

小銃第七 甲斐彦左エ門 同年七月廿九 同 同断
隊戦士 実福 二十一 日越後国長岡

同藩
士族 父助八二男

復城ノ時城下
ノ町ノ戦ニ創
ヲ被リ八月朔
日歿ス

小銃第七 児玉彦四郎実堅 同年七月廿九 同 同断
隊戦士 二十四 日越後国妙見

同藩
士族 父彦兵衛

村ヨリ進撃シ
テ長岡ヲ回復
スル苦戦ニ創
ヲ被リ八月朔
日歿ス

小銃第七 能勢源左エ門 同年七月廿九 同 同断
隊戦士 通寛 二十二 日越後国長岡

同藩
士族 父源之丞嫡子

城ヲ復スルノ
戦ニ創ヲ被リ
八月二日歿ス

小銃第七 林歳之丞 昌行 同年七月廿九 同 同断

同藩

隊戦士 十七 日越後国長岡

士族

城回復ノ時城

父藤一郎四男

下ニ於テ戦死

小銃第十 新納弥五左エ門 同年七月廿九 明治元年正月 同藩

隊戦士 実晴 二十六 日越後国長岡 三日伏見六日 士族

領六日市村ヨ 八幡戦争出軍

実父

リ進撃ノ時創

永田庄助

ヲ被リ九月廿

直子無之

日歿ス

小銃第十 山口勇助 盛孝 同年七月廿九

同藩

三隊戦士 二十七 日越後国長岡

士族

城回復ノ時福

養子徳四郎

井村台場ノ戦

ニ創ヲ被リ八

月三日死ス

小銃第十 尾上為之丞正雄 明治元年七月

同藩

三隊戦士 二十八 廿九日越後国

士族

蒲原郡福井村

弟八次

台場ニ於テ戦

死

小銃第十 堤彦太郎 為次 同年七月廿九

同藩士族

四隊戦士 二十四 日越後国長岡

父亀太郎嫡子

復城ノ時溝村

ニ於テ戦死

外城第二 小頭 同年七月廿九 明治元年正月 同藩

隊 蛟島武兵衛貞胤 日越後国福井 三日鳥羽ヨリ 加世田士族

三十 村進撃ノ時創 六日八幡戦争 養父市兵衛

ヲ被リ八月晦 迄出軍

日歿ス

外城第二 上原直助 尚次 同年七月廿九 同 同断

同藩

隊戦士 二十八 日越後国福井

伊作士族

村台場ニ於テ

叔父金次郎

戦死

番兵第二 源次郎 同年七月廿九

江戸出産

隊監軍安 日越後国長岡

田泰助從 ノ戦ニ創ヲ被

卒 リ八月三日歿

ス

小銃第十 町夫 同年七月廿九 鹿兒島藩
四隊卒 大重小次郎 日越後国大黒 酒匂源左エ門

村ノ戦ニ創ヲ 父休兵衛
被リ八月廿七 日歿ス

小銃第十 上野嘉次郎吉広 同年八月朔日 実弟
三隊戦士 二十三 越後国三島郡 川俣喜平次

五十嵐川田島 渡口ノ戦ニ創
ヲ被リ八月廿 一日歿ス

小銃第十 蒲地喜次郎基納 同年八月朔日 同藩
三隊戦士 二十一 越後国五十嵐 土族

川田島渡口ノ 父喜仙二男
戦ニ重創ヲ被 リテ歿ス

小銃第七 有馬良次郎純辰 明治元年八月 明治元年正月 鹿兒島藩
隊戦士 十八 二日越後国月 六日八幡戦争 土族
岡村ニ進撃シ 迄出軍 父次助二男

テ創ヲ被リ同 十七日歿ス

番兵第二 宇都宮多聞院 同年八月二日 同藩
隊戦士 快明 三十 越後国曲淵村 高山士族

ニ於テ戦死 父東太嫡子
嫡子鶴千代

番兵第二 伊地知彦治季輝 同年八月二日 同藩
隊戦士 二十 越後国曲淵村 谷山士族

ニ於テ戦死 父弥七

番兵第二 山下正右エ門 同年八月二日 同藩
隊戦士 兼善 二十八 越後国曲淵村 谷山士族

ノ戦ニ創ヲ被 父元右エ門
リ同十二日歿 ス

番兵第二 平川藤兵衛高邦 同年八月二日 同藩
隊戦士 二十二 越後国曲淵村 高崎士族
ニ於テ戦死 父藤兵衛嫡子

番兵第二 松下彦二 実好 同年八月二日
隊戦士 二十 越後国曲淵村
ニ於テ戦死

同藩高城郡
高城士族
父彦九郎嫡子

番兵第二 松下新蔵 兼武 同年八月二日
隊戦士 二十二 越後国曲淵村
ノ戦ニ創ヲ被
リ八月十五日
歿ス

同藩
穆佐士族
父十左エ門嫡
子

番兵第二 鹿島喜十郎 同年八月二日
隊戦士 国次 三十一 越後国曲淵村
ニ於テ戦死

同藩
百引士族部屋
住 父八郎太
嫡子伝左エ門
当己十歳

番兵第二 常吉 明治元年九月 明治元年八月 鹿兒島藩
五十一 十一日越後新 二日高山士族 高山野町人
発田ニ於テ歿 宇都宮多聞院 父藤助
ス 越後曲淵村ノ
戦ニ戦死スル
ヲ聞キ兼テ主

小銃第十 悦次郎
三隊夫卒

同年八月二日
越後国大黒村
ノ戦ニ創ヲ被
リ同廿一日歿
ス

越後国夏井村

番兵第二 直助

同年八月一日

鹿兒島藩

隊夫卒

四十

越後国三島郡

志布志野村農
民

五十嵐川ニ於
テ戦死

從弟善五郎

外城第一 川崎次郎太重登
隊戦士

同年八月四日 明治元年正月 同藩
越後国蒲原郡 三日鳥羽ヨリ 伊作士族
福島村月津山 六日八幡戦争 父清左エ門嫡
中ニ於テ戦死 迄出軍 子

嫡子清之進

外城第二 小頭 同年八月四日 同断 同藩	外城第二 佐々木助右エ門 同年八月四日 同断 同藩	外城第二 綱方 四十四 越後国福島村 月津山中ノ戦 ニ創ヲ被リ同 廿三日歿ス 伊作士族 家督 嫡子伊右エ門	外城第三 小頭 同年八月四日 同断 同藩士族	外城第三 本田太郎作親直 越後国村松城 下町口ノ戦ニ 創ヲ被リ九月 五日歿ス 父元右エ門二 男 養父廉四郎 家督	小銃第十 小浜喜八 正善 同年八月四日 同藩	小銃第十 三十三 越後国加茂口 下条村ノ戦ニ 創ヲ被リテ歿 ス 士族 嫡子矢之助
----------------------------------	---------------------------------------	--	------------------------------------	---	------------------------------------	---

小銃第十 川俣平左エ門 明治元年八月 四日越後国加 茂口下条村ノ 戦ニ重創ヲ被 リテ歿ス 男	小銃第十 三島弥太郎道正 同年八月四日 同藩	小銃第十 三十一 越後国蒲原郡 上保内邑ノ戦 ニ重創ヲ被リ テ歿ス 士族 父八十八嫡子	大砲第二 相良正右エ門 同年八月六日 明治元年正月 同藩	大砲第二 長光 十九 越後国長岡領 三日伏見ヨリ 士族	小銃第七 辻森之助 清武 同年八月十日 同年正月六日 同藩	小銃第七 十九 越後国小松村 八幡戦争出軍 士族	小銃第七 進撃ノ時戦死 父次郎右エ門 嫡子
---	---------------------------------	--	--	--	--	--------------------------------------	--------------------------------

小銃第七 宮之原源吾通寛 二十七日 村進撃ノ時創 ヲ被リ同廿九 日歿ス	同年八月十一 同 同断	同藩 士族 父六郎兵衛嫡 子
小銃第七 塩田分右エ門 十八 日越後国小松 村進撃ノ時戦 死	同年八月十一 同 同断	同藩 士族 父十郎嫡子
小銃第十 別府五左エ門 明志 三十一 戦ニ創ヲ被リ 十月朔日歿ス	同年八月十日 越後国五泉ノ 戦ニ創ヲ被リ 十月朔日歿ス	同藩 士族 二弟平八郎
小銃第十 伊東敬輔 祐政 二十二 テ戦死	同年八月十日越 後国五泉ニ於 テ戦死	同藩 士族 父藤兵衛嫡子
小銃第十 林藤左衛門 明治元年八月 十一日越後国 五泉黒井村ニ	同年八月十日越 後国五泉ニ於 テ戦死	同藩 士族 父藤兵衛嫡子

小銃第十 有馬新太郎從卒 同年八月十二 日越後国田川 内村ニ於テ戦 死	同年八月十二 同藩 士族 父民右エ門 嫡子
小銃第十 桂弥八郎 十六 郡高石口田川 内村ニ於テ戦 死	同年八月十二 同藩 士族 父民右エ門 嫡子
小銃第十 清太郎 十八 内村ニ於テ戦 死	同年八月十二 同藩 士族 父民右エ門 嫡子
外城第二 次郎 三十二 日越後国蒲原 郡石間口ノ軍 ニ從ヒ死ス	同年八月十七 同藩伊作小野 村脇門農民 男子長次郎
外城第二 梅太 二十五 日越後国石間 口ノ軍ニ從ヒ 死ス	同年八月十七 同藩伊作和田 村窪敷門農民 父仲左エ門

小銃第十 大鼓役 同年八月十八 同藩
四隊 脇田仙之丞孝宗 日奥州会津領 吉田士族

二十五 岩屋村ノ戦ニ 父伊右エ門

創ヲ被リ十月 四日歿ス

大砲隊第 阿多六郎兵衛 同年八月廿八 同藩

四隊戦士 実秀 三十四 日会津領天屋 士族

ノ戦ニ創ヲ被 家督

リ九月十四日 嫡子幸熊

越後国新潟ニ 於テ歿ス

外城第四 川俣徳太郎国順 同年八月廿九 明治元年正月 同藩

隊戦士 二十 日陸奥国会津 三日伏見ヨリ 出水郷士族

片門台場ニ於 六日戦争迄出 父平右エ門国

テ創ヲ被リ九 軍 治

月八日歿ス

外城第二 吉田与藤次清次 明治元年九月 明治元年正月 鹿兒島藩

隊戦士 二十五 朔日陸奥国御 三日鳥羽ヨリ 加世田士族

藏入村ニ於テ 六日八幡戦争 父万左エ門
戦死 迄出軍

小銃第十 中村吉太郎兼次 同年九月朔日 同藩

三隊戦士 十八 越後境鼠ヶ関 士族

進撃ノ時中浜 父吉左エ門嫡

山中ニ於テ戦 子

死

小銃第十 永田吉之助正行 同年九月朔日 同藩

三隊戦士 三十三 越羽之境鼠ヶ 士族

関口進撃ノ時 兄藤左エ門二

岩船郡中浜山 弟

中ノ戦ニ創ヲ

被リ十一月十

一日歿ス

番兵第四 田中宗右エ門 同年九月十一 同藩

隊戦士 国次 十八 日秋田領豊島 伊作士族

ノ戦ニ創ヲ被 父次右エ門嫡

リ終ニ死ス 子

番兵第四	関屋八太郎孝則	同年九月十一	同藩
隊戦士	十八	日秋田領川辺	出水郷士族
		郡豊島ノ戦ニ	父八郎右エ門
		創ヲ被リ同廿	孝慈
		八日歿ス	
小銃第十	伍長	同年九月十日	同藩士族
五隊	大山宗之助綱方	秋田領豊島ニ	父彦左エ門二
	二十二	於テ戦死	男
			直子無之
小銃第十	久留松太郎	同年九月十日	同藩
六番隊従	二十二	秋田領椿川村	父方従弟
卒 川上		ノ戦ニ從ヒ創	平田藤五郎
東馬家臣		ヲ被リ歿ス	家来
			池田万次郎
小荷駄主	三五郎	同年九月十一	同藩
工夫	三十四	日秋田領椿川	伊集院麦生田
		村ノ戦ニ死ス	村米倉門農民
			兄善太郎
私領岩川	田中覚四郎義次	明治元年九月	同藩

隊戦士	三十三	十二日羽州庄	伊勢雅楽家臣
		内領越浪街道	直子無之
		台場先キノ戦	実弟
		ニ創ヲ被リ十	田中覚右エ門
		月四日歿ス	
番兵第二	竹下五兵衛助次	同年九月十二	同藩
隊戦士	二十	日越後国岩船	鹿屋士族
		郡小俣村進撃	父六郎左エ門
		ノ時創ヲ被リ	嫡子
		十一月十九日	
		歿ス	
番兵第五	白石清之丞	同年九月十二	同藩
隊戦士	正次	二十四	山野郷士族
		日越後国小俣	実兄
		村進撃ノ時戦	荒武初兵衛
		死	
私領大砲	落合一郎 兼保	同年九月十二	同藩
隊戦士	二十四	日越後国小俣	島津兵庫家臣
		村進撃ノ時戦	父平蔵嫡子
		死	

大砲第二 小頭見習 同年九月廿日 明治元年正月 同藩
久保源藤 安敬 羽州庄内領米 三日鳥羽ヨリ 士族

二十四 沢村ノ戦ニ創 六日八幡戦争 父源之丞嫡子
ヲ被リ同廿一 迄出軍
日歿ス

大砲第二 清吉 同年九月廿日 越後国高田領
隊卒 羽州村山郡島 大鹿村
村ニ於テ戦死

小銃第十 徳田助右エ門 明治元年正月 鹿兒島藩
隊戦士 昌長 十六 羽州寒河江川 三日伏見六日 士族
ノ戦ニ創ヲ被 八幡戦争出軍 父
リ十月十日歿 直右エ門嫡子

兵具第二 隈元僊太郎国繼 同年九月廿日 同藩
隊 羽州村山郡島 士族
村寒河江川ニ 於テ戦死

兵具第二 谷崎喜左エ門 明治元年九月 鹿兒島藩
隊足輕 舖敦 二十六 廿日羽州村山 足輕
郡島村ニ於テ 父伝太郎
戦死

兵具第三 喇叭役 同年九月廿日 同藩
隊 田尻平太郎 羽州村山郡島 士族
種持 十五 村ニ於テ戦死 家督
実父中村喜覚

番兵第二 池田覺十郎盛次 同年九月廿日 同藩
隊戦士 二十 羽州島村ニ於 飯野士族
テ創ヲ被リ其 実父
後歿ス 馬場宇左エ門

番兵第二 内丸休太夫篤実 同年九月廿日 同藩
隊戦士 三十 羽州寒河江ニ 栗野士族
於テ戦死 養父休左エ門
嫡子休一郎

兵具第三 本吉庄八郎貞知 同年六月廿日 同藩
隊 二十三 羽州村山郡白 士族
岩ノ戦ニ創ヲ 親類
被リ十月廿日 森山庄右エ門

山形ノ病院ニ 在リテ歿ス山
形招魂社ニ葬
ル

兵具附士 小頭 第一隊 原田長蔵 種明 二十七日 閩川村進撃ノ 時創ヲ被リ十 月九日歿ス	兵具附士 小頭 第一隊 向田彦左工門 正直 二十三 進撃ノ時戦死	兵具附士 長瀬熊太郎信吉 第一隊戦 二十一 日庄内領田川 郡閩川進撃ノ 時戦死	兵具附士 野添助四郎篤直 第一隊戦 十七 十二日庄内領 閩川村ニ於テ 戦死	兵具附士 安楽金太郎兼貞 第一隊戦 二十一 日羽州閩川ノ 戦ニ創ヲ被リ 十一月廿九日 歿ス
同藩 士族 父助左工門嫡 子 嫡子哲熊	同藩 士族 三弟幸蔵	同藩 士族 実父長瀬四郎 右工門	同藩 士族 兄善之進	同藩 士族 父金右工門嫡 子

外城川辺 日置藤左工門 隊 俊次 二十四 庄内領閩川村 越沢口戦争御 旗本隊へ応援 ノ節戦死	小銃第四 西田十太郎秀高 隊ノ従兵 二十八 伊右衛門ニ附 從東京ヨリ羽 州へ通行ノ途 中仙台領向坂 ニテ殺害セラ ル月日詳ラス	遊撃第四 篠長 隊 蛟嶋金兵衛宗隆 四十四 陣副総督府ヨ リ奥州岩沢滞 陣総督へ使節 ノ命ヲ奉シ途 中横死
同藩 川辺士族 父仲左工門嫡 子	同藩 父喜左工門嫡 子	同藩 嫡子壮之進

遊撃第四 田中太郎太純友 同年閏四月廿	同藩
隊四役場 四十九 五日羽州新庄	士族
付 滯陣副総督府 ヨリ江戸表へ	嫡子藤太
使節ノ命ニ依 テ山形ノ通行 ノ時横死	
遊撃第四 河野浄介 通鑑 同年七月十一	同藩士族
隊戦士 二十六 日羽州最上郡 新庄有谷村ニ 於テ戦死	二弟彦次郎 三弟直彦 直子無之
遊撃第四 弓削休右エ門 同年七月廿九	同藩
隊戦士 利次 二十五 日羽州雄勝郡 寺沢村ニ於テ 戦死	士族 嫡子喜一郎 兄仲右エ門
小銃第十 日置半之進兼亮 明治元年八月	鹿兒島藩
六隊戦士 十八 廿三日秋田領 花館駅大曲台	士族 父半兵衛三男

小銃第十 本田市太郎親利 同年八月廿三	同藩士族
六隊戦士 二十九 日秋田領花館 ノ難戦ニ戦死	嫡子 本田休左衛門 叔父 日高竜太郎
小銃第十 本城牛之助輝平 同年八月廿三	同藩
六隊戦士 二十二 日秋田領花館 ノ難戦ニ死ス	士族 父源七郎三男
小銃第十 川村市十郎澄清 同年八月廿三	同藩士族
六隊戦士 三十三 日秋田領花館 ノ難戦ニ創ヲ 被リ遂ニ歿ス	親類 坂本源五左エ 門
隊外 本營斥候役 同年八月廿八	同藩
田畑平九郎常敬 日羽州秋田領 二十六 花館ニ於テ戦 死	養父武右エ門

番兵第三 長友次郎左工門 同年八月廿三

同藩

隊戰士 安治 二十

日羽州秋田領

高岡士族

花館ニ於テ戰死

実父宗右工門

番兵第三 篠原正九郎政要 同年八月廿三

隊戰士 二十三

日羽州秋田領

同藩恒吉士族

父直左工門嫡子 嫡子正時年二歲

番兵第三 中島宗左衛門 同年八月廿三

隊戰士 正寛 三十七

日羽州秋田領

家督

花館ニ於テ戰死

実兄 本山次左工門

直子養子無之

番兵第三 兵粮方

明治元年八月

隊戰士 日高曾兵衛為珍

廿三日羽州秋

鹿兒島藩

三十二 田領花館ニ於

父寛左工門

テ戰死

番兵第三 大鼓役

同年八月廿三

同藩

隊戰士 萩原乘左工門

日羽州秋田領

高山士族

兼良 二十三

花館ニ於テ戰死

養父平藏

番兵第四 堀内大炊介在徳 同年八月廿三

隊戰士 二十一

日羽州秋田領

同藩 指宿士族

花館ニ於テ戰死

直子無之 実兄堀内宮内

遊撃第四 斥候役 同年八月廿三

隊 金里矢兵衛長善 日羽州秋田領

同藩 三弟壯之丞

三十一 花館ニ於テ戰死

直子無之

遊撃第四 坂口運次 実吉 同年八月廿三

隊戰士 二十六 日羽州秋田領

同藩士族 父新左工門嫡子

花館ニ於テ戰死

直子無之

遊撃第四 池上平太 盛常 同年八月廿三
隊戦士 十九 日羽州秋田領
花館ニ於テ戦

死

同藩士族
実父

神崎五郎右エ

門

直子無之

小銃第十 北郷由之進資治 同年八月廿三
五隊戦士 二十二 日秋田領花館
駅四ツ屋ニ於

テ戦死

同藩士族

叔父

北郷七次郎

北郷助七

小銃第十 盛吉

同年八月廿三

三隊従卒

日羽州秋田領

愛申蔵記

花館ニ於テ戦

家臣

死

原口森吉

同藩
父原口仲兵衛

同藩

国分清生 源太郎

明治元年八月

隊夫卒

廿三日秋田領

四ツ屋ノ戦ニ

創ヲ被リ九月

鹿兒島藩

国分小村町

父池田源次郎

十日歿ス

国分清生 太吉 同年八月廿日

隊夫卒

十九

曉羽州秋田領

死

同藩

国分小村町

父池田伝兵衛

十五番隊 田中弥七

同年八月廿三

半隊長竹

六十三

下喜左エ

日羽州秋田領

門従卒

花館ニ於テ戦

死主人喜左エ

門ニ從ヒ出戦

十五番隊 三四郎

同年八月廿三

松元覚之

四十五

承従卒

日羽州秋田領

死

同藩荒田村前

田門農民

姉簪荒田吉村

門ノ五右エ門

十五番隊 太郎

同年八月廿三

内田勘兵

十九

衛従卒

日羽州秋田領

死

同藩

兄八太郎

十五番隊	早助	同年八月廿三	同藩加世田津
中村喜次		日羽州秋田領	貫村今村門
郎從卒		花館ニ於テ戰死	平民
番兵第四	鬼塚矢太右エ門	同年九月十六	同藩
隊戰士	盛実	三十二	東郷士族
		日羽州上淀川	養父喜右エ門
		ノ戰ニ創ヲ被リテ歿ス	
遊撃第四	横内次郎助兼次	同年九月十五	同藩士族
隊戰士		四十	父梳兵衛
		日羽州秋田領	嫡子五助
		仙北郡刈和野	
		ニ於テ戰死	
遊撃第四	弓削直八	利次	明治元年九月
隊戰士		二十三	明治元年四月
		十五日羽州秋	鹿兒島藩
		田領刈和野ニ	士族
		川口ノ戰ニモ	兄眞之進
		於テ戰死	重創ヲ被リ平
			直子無之
			憲ノ上再出軍
遊撃第四	平助	同年九月十五	同藩

隊夫卒	日羽州秋田領	男子徳次郎
実ハ相良	刈和野ニ於テ	
仁右エ門	戰死	
家臣永浜		
平助		
隊号等級	官名姓名年齢	死没年月地名
隊長	小銃一番	明治元年十月十八
	鈴木武五郎	利安
	日歸陣之途中於東	鹿兒島藩士族
	二十四	京病死
		母方從弟
		篠崎甚七
		城井彦右衛門
明治元年正月三日伏見鳥羽戰爭ヨリ并關東奥州諸所出軍会津降		
伏迄戰勞不少		

隊号等級	官名姓名年齢	死没年月日 何地名墓所	履歴戦功	本貫属族国 郡郷里親族
小銃八番	野元源左工門	明治元年正月		鹿兒島藩
隊戦士	綱直 二十	山城国伏見戦 争後大坂管中 ニ於テ病死		士族 叔父 野元喜納次
小銃八番	東熊助 長賀	同年同月伏見 戦争後大坂管 中ニ於テ病死		父 同 同 正之進嫡子
隊戦士	野崎直助 直義	同年同月伏見 戦争後大坂管 中ニ於テ病死		同 同 父野崎吉兵衛 四男
私領一番	武田源右工門	同年同月鳥羽 戦争後京都在 陣中病死		鹿兒島藩 島津元丸家臣 養父 武田藤兵衛 嫡子熊襲袞

小銃六番	伝蔵	明治元年正月	鹿兒島藩
隊夫卒	二十六	伏見鳥羽戦争 後同七日病死	川北十郎家臣 弟藤蔵
小銃十番	椎原助二 国澄	同年同月伏見 戦争後二月廿 三日病死	同藩士族 実父椎原助左 工門二男 養子椎原丈次 郎
隊戦士	吉井彦左工門	同年同月伏見 戦争後四月十 八日京都ニ於 テ病死	同 同 父 若松彦兵衛
小銃十番	長傳 二十八		
隊戦士	飯田源之丞常徳	同年同月鳥羽 戦争大坂在陣 中迄非常ノ勞 勤関東出軍ノ 途中発病四月 廿三日死ス	同 同 親類 重信幸兵衛 緒方藤之丞
兵具一番	二十五		
隊戦士			

本管役所 永井作四郎	同年奥州表へ	同 同士族
付役 実次	出軍中大田原 駅ニ於テ病死	
小銃八番 樺山伊十郎資房	同 同六月十 九日越後出雲 崎陣中ニ病死	同 同士族 実父 樺山巖五郎
隊戦士 二十三		
私領二番 佐多休之進直方	同年六月廿三 日常州平瀧陣 營ニ於テ病死	同 同士族 父 佐多平助
隊戦士 十九		
一番遊撃 貴島助次郎	同年東征出軍 中東京ニ於テ 病死	同藩志岐小左 工門家臣 養子 貴島直次郎
隊水夫 三十		
外城一番 甚太郎	明治元年五月 東京病院ニ於 テ病死	鹿兒島藩 高岡夫卒

不明 直右工門	同年六月廿八 日越後ニ於テ 病死	不明
私領一番 富松善十郎兼興	同年正月鳥羽 戰爭後常州平 瀧迄出軍同所 戰爭後病死	鹿兒島藩 島津元丸家臣 実父 隈元庄右工門
隊戦士 十九		
小荷駄方 彦四郎	同年七月九日 正月伏見戰爭 引続テ関東出 軍總州武州東 叡山戰爭諸所 へ從軍	同藩谷山和田 村東塩屋浦人
土工夫 病死		
外城四番 監軍 林正之進 常清	同年羽州秋田 領在陣中病死	鹿兒島藩 士族 兄林八郎左工 門二弟
三十一		

四番遊撃 水間喜太郎意正 同年八月廿三
隊戰士 二十 日羽州秋田領

花館ノ戦争ニ

重創ヲ被リ帰

陣後難痘ヲ煩

ヒ二年二月三

日死ス

同藩 同
叔父

水間岩次郎

小荷駄方 小次郎

同年八月廿八

夫卒

日羽州戦争中

病死

同谷山宇宿村
農民

小荷駄方 横山十太郎

同年八月十二

夫卒

日野州宇都宮

ニ於テ病死

同

本城源七郎家

臣

父横山八太郎

小銃十番 山本政次郎

同年八月越後

隊夫卒

二十三

高田病院ニ於

テ死ス

鹿兒島藩

猪飼次家臣

実父善四郎

外城一番 松太郎

同年八月越後

隊夫卒

柏崎ニ於テ病

同高岡産

従弟嘉助

死

小銃一番 精松善次 貞行 同年九月十八 明治元年正月 同士族

隊戰士 二十四 日会津若松城 山城伏見戦争 父

下陣中ニ於テ ヨリ東征之役 精松善之丞二

病死 奥州諸所戦劣 男

不少

一番遊撃 東郷四郎左工門 同年九月廿七 同年正月鳥羽 同 同

隊戰士 実武 十七 日若松城下陣 戦争并関東奥 兄

中ニ於テ病死 州諸所劣功不 東郷四郎兵衛

少 二弟

外城番兵 肥後幸蔵 盛富 同年九月十四 同 同

二番隊戦 二十六 日越後出軍中 大崎衆中

士 高田ニ於テ病 実父

死 有田源左工門

外城三番 大鼓役 同年九月十五 同年正月鳥羽 同 同

隊 有馬孫兵衛角功 日越後高田病 戦争并北越出 伊集院衆中

二十七 院ニ於テ死ス 軍戦功不少 養父

有馬正蔵

小荷駄方 夫卒	次郎	同年八月九日	同指宿産
外城番兵 一番隊	玉葉持夫 助右工門	同年九月十一日 日会津城下ニ	同谷山和田村 坂元門農夫 実子金次郎
大砲二番 隊夫卒	常吉	同年九月越後 ニ於テ病死	鹿兒島藩
小銃四番 隊戦士	林太郎兵衛政時	同年十月奥州 会津帰陣ノ途 中野州古河驛 ニ於テ病死	同年正月伏見 同 士族 戦争ニハ二番 近親之レ無シ 遊撃隊ヲ以テ 親類 出軍東征ノ時 家村十郎右衛 門 四番隊転入奥 州諸所戦功不 少加之再度銃 創ヲ被リ創未 タ平癒セサル ニ疫病ヲ患ヒ 遂ニ死ス

兵具方附 士一番隊 戦士	本村仲太郎義矩	越後出陣帰陣 三十三 ノ途中病死	同 同
小銃十二 番隊夫卒	金次郎	同年十月九日 横浜病院ニ死 ス	同 同 政田屋人足
大砲三番 隊夫卒	金次郎	同年十月奥州 会津帰陣ノ途 中東京ニ於テ 病死	同上井次郎左 工門下僕 從弟 仁右工門
不明	伊三次	同年十月十二 日越後新潟病 院ニ於テ死ス	鹿兒島藩 志布志安樂村 大別府門農民 父権七
不明	十郎次	同年十月八日 越後新潟病院 ニ於テ死ス	不明

斥候役 同年十一月十 主人七之丞ニ 同

東郷七之丞從卒 九日羽州秋田 附屬秋田へ出

太郎 病院ニ死ス 軍

私領三番 市左衛門 明治元年奥州 鹿兒島藩加治

隊夫卒 二十一 出軍十一月十 木郷日木山村

三日帰途川油 土持門農民
宿ニテ病死 父金太郎

小銃三番 岸良矢右工門 明治元年奥州 同年正月伏見 同 士族

隊戦士 兼包 二十 帰陣後痘瘡ヲ 戦争ヨリ関東

患ヒ十二月三 奥州出軍六月
日死ス 十二日白川ニ

テ重創ヲ被リ

横浜病院治療

再入隊会津出

兵降伏迄戦争

功勞不少

一番遊撃 佐野藤助 実次 明治元年十二 同年伏見戦争 同 同

隊戦士 十九 月十七日病死 并関東奥州諸 実父

所出軍六月ヨ 平田清七

リ大病相患猶

推テ若松城進

撃十一月帰陣

小銃十一 江島喜左工門 明治二年正月 明治元年奥州 同 同

番隊戦士 影次 三十八 十九日病死 諸所出軍戦争 嫡子

帰陣後就病 江島市製裳

二番遊撃 執印伝左工門 明治二年正月 明治元年正月 同 同

隊戦士 友永 二十三 十六日病死 伏見鳥羽戦争 実父

并北越出軍功 伝左工門

勞不少解兵歸

藩後病ニ就ク

二番遊撃 医師 同年正月廿一 明治元年正月 同 同

隊付 原田如正 貞純 日病死 伏見鳥羽戦争 実父

二十六 并北越出軍解 彦左工門

兵後就病

外城番兵 奈良木矢八政次 明治元年十二 同年北越出軍 同 同
三番隊戦 十九 月廿日病死干 陣中病ヲ得ル 父五兵衛
士 京師

小銃十番 山口利兵衛 明治元年正月 同 同
隊 範賛 二十三 伏見戦争後大 坂陣営ニ死ス

財部善右工門 明治元年陣中 病死 鹿兒島藩
士族

戊辰戰役薩藩各隊行動

戊辰戰役薩藩各隊行動

一、鹿兒島出發年月日並上陸地

二、出征地並月日

三、戰鬪又ハ守衛場所並月日

四、凱旋出發地月日並鹿兒島着月日

五、隊長並官軍氏名
(監力)

私領四番隊 宮之城

一、明治元年八月廿三日頃 鹿兒島出發

全 八月廿八日頃 越後新瀉港着上陸

二、明治元年八月廿八日頃 新潟ヨリ柴田着(同地滞在四日間)

全 九月六日頃 米沢着

全 〃 七日 米沢出發

全 〃 十日 会津若松着

三、明治元年九月十日 東山ヲ經テ青木村着、直ニ若松城ニ向フ、戰

鬪七日間

全 九月十六日 若松城落城、右城守衛五日間

全 九月廿一日 猪苗代守衛 一週間

全 九月廿八日 若松城守衛 二十日間

四、明治元年十月十九日 若松城出發、江戸ヲ經テ陸路大阪着、夫ヨ

リ海路

全 十二月十五日頃 鹿兒島着

五、小隊長 半隊長

分隊長 監軍

監軍

四番砲隊

一、明治元年六月十一日 鹿兒島出發

全 六月十三日 鳥羽上陸

二、明治元年七月十二日 駿河、甲斐、信濃ヲ經テ高田着、四・五・六番

砲車ヲ長岡ニ残シ一・二・三番砲車ヲ佐渡島ニ

向フ

全 七月廿三日 佐渡上陸、廿四日同地滞在

全 〃 廿五日 松崎へ上陸、半隊ハ新潟へ、

半隊ハ新発田へ

全 八月十七日 会津ニ向フ

全 自九月廿四日 会津滞在

全 至十月五日 白河着

三、明治元年六月十五日 長岡ノ戰

全 七月廿七日 水原ノ戦
 全 七月廿九日 分田ノ戦
 全 八月四日 村松ノ戦
 全 八月十日 坪穴ノ戦
 全 自八月十九日 津川ノ戦
 至八月廿七日
 全 自八月廿八日 天屋ノ戦
 至九月七日
 全 自九月十日 会津ノ戦
 至九月廿三日
 明治元年七月廿八日 水原守衛
 全 自七月三十日 水原守衛
 至八月三日
 全 八月六日 村松守衛
 全 自八月七日 新発田守衛
 至〃九日
 全 自八月十一日 新発田守衛
 至〃十六日
 全 自十月九日 白河守衛
 至十月十三日
 四、明治元年十月十四日 白河出発
 全 十月二十日 品川着
 全 十月廿一日 品川出発
 全 十二月廿四日 鹿兒島着

五、小隊長 川田掃部

半隊長 川上平八郎

分隊長 川上八郎左衛門 奥ノ崎七郎左衛門 谷元彦八

宇都子左衛門

監軍

私領五番隊 岩川

一、慶応四年六月十二日 鹿兒島出発

全 七月九日 大阪上陸

二、慶応四年七月十二日 京都着

全 〃 廿二日 同地出発、越前・滋賀・越後新発田ヲ經テ九月朔日越後ノ内大毎村ニ到リ中村ニ在陣、大毎、

北黒川両村巡邏

慶応四年九月四日 越後ノ関川村ニ到ル

全 〃 十日 中継村ニ到ル

全 〃 廿七日 庄内鶴岡城下ニ入ル

全 十月六日 同所出発、越後村上三戌兵十二月七日マデ

三、明治元年九月十日ヨリ

全 〃 十六日マデ 雷村、関川村、越沢口等ニ転戦

明治元年九月廿一日ヨリ

関川村守衛

全 九月廿六日マデ

全 九月廿七日 庄内降伏

四、明治元年十二月八日 越後村上出発

全 二年 正月二日 東京ニ凱旋

全 二月 日 鹿兒島着

五、小隊長 大津十七

半隊長 吉瀬藤左衛門

分隊長 佐々木勇輔

監 軍 東郷六郎兵衛 八代幸次郎

出水隊

一、慶応四年一月廿三日 出水郷ヨリ出発

全 二月十二日 大阪着

二、右同

大阪ニ在陣

三、右同

大坂着ト同時ニ陣焼跡並大阪城守衛、要所巡邏

四、慶応四年 月 日 大阪発

全 三月上旬 鹿兒島着解散

五、総差引 松橋宗之丞

半隊長 河野勘太夫

分隊長 窪田周兵衛

監 軍 千田七右衛門

教導 溝口弥壮太

帖佐隊

一、 年十一月 日 島津公護衛兵トシテ京都ニ到ル

四、 年 月 日 同地解散帰郷

五、小隊長 豎山平次郎

半隊長 矢野八次郎

分隊長 川崎十兵衛

監 軍 伊集院弥七 竹ノ内十左衛門

垂水隊

一、 年 月 日 鹿兒島発

年 月 日 大阪着

三、 年 月 日 京都守衛

四、年 月 日 大阪出發

五、小隊長 町田案山子

半隊長 平山治右衛門

顯桂隊

一、明治元年十一月 日 鹿兒島出發十州燈ノ浦ヲ經テ大阪ニ着（年月日

不詳）

二、全 二年四月 日 京都へ着

年 月 日 江戸へ出發、北海道出軍ノ管中止

四、明治二年八月 日 江戸出發

全 月 日 帰麗

五、小隊長 島津應吉

半隊長 田中種八郎

分隊長 樋渡五郎

喜入隊

一、慶応四年八月晦日 鹿兒島發

全 九月三日 大阪着

三、慶応四年九月三日ヨリ

振海警衛

全 〃 十四日マデ

全 〃 十五日ヨリ

全 十二月四日マデ

京都守衛

四、慶応四年十二月八日 大阪出帆

全 〃 廿二日 小倉上陸

明治二年正月五日 鹿兒島着（陸路）

五、小隊長 伊藤郷十郎

半隊長 川田基介

分隊長 志々目平内左衛門

監 軍 美代助左衛門 平山作右衛門

付 役 柿本助左衛門

加治木隊

一、明治元年七月廿六日 鹿兒島出發、平戸、下関、隠岐、佐渡ニ寄港シ

全 八月廿四日 越後松ヶ崎ニ上陸

二、明治元年九月九日 松崎出發、新発田、米沢、上ノ山ヲ經テ山形ニ

向フ

全 十月朔日 横山ヨリ船ニテ最上川ヲ下リ七里位ノ地点ニ上

陸庄内城下ニ入ル

十月末日 新発田、新潟ヲ經テ江戸城下ニ入ル

明治二年三月初旬 江戸出發、品川ヨリ汽船ニテ南部ニ向フ

全 三月廿四日 南部桑ヶ崎ニ着

全 三月末日 青森ヨリ松前江差ニ上陸、陸路有川ヲ經テ函館ニ入ル

三、明治元年九月八日 山形ニ戦フ

全 九月廿一日 横山ノ戦鬪

全 二年五月 日 有川ノ戦鬪

全 五月 日 津輕陣屋ノ戦鬪

全 元年十月 日 越後村上ニ一ヶ月位守衛(庄内ヨリ江戸ヘ引揚ノ途上)

四、明治二年六月 日 津輕陣屋ノ戦争終ヘテ江戸ニ凱旋ス

全 七月中旬 江戸着

全 八月廿日頃 鹿兒島着

五、小隊長 田島仲左衛門

半隊長 栗永彦藏

監軍 池田次郎兵衛 村橋直衛

苗代川隊

一、慶応四年七月廿五日 出軍仰付ラレ

全 四年八月三十日 鹿兒島前ノ浜出發

全 四年九月二日 大阪上陸

二、全 四年九月二日 大阪薩摩屋敷番兵

全 九月四日 京都着

三、全 四年九月四日 京都ニ着シ摂泉防禦總督守兵

四、慶応四年十一月三十日 帰国仰付ラレ

全 十二月四日 京都出發

明治二年 一月五日 帰村

五、小隊長 岩下喜之助

半隊長 篠原新四郎

分隊長 黒田藤七郎

監軍 田代直世 相良佐平太

醫師 国正喜春

阿多隊

一、 年八月十六日 阿多出發

九月 日 鹿兒島出発
九月 日 京都着

二、 年九月 日 京都守衛

四、翌年正月 日 京都発

全 正月 日 鹿兒島へ凱旋

五、小隊長 国分市次郎

半隊長 オノ原平藏

分隊長 本田 直

監 軍 川上 某

平佐
垂水 隊

五、小隊長 中山吉太郎

半隊長 郷田七郎

分隊長 町田文五郎(案山子)

監 軍 平島平八 中野駒右衛門

伊集院
郡山 隊

三、 年 月 日 大阪城守衛市中取締

五、小隊長 有馬弥兵衛

半隊長 肥後善左衛門

分隊長 上村得藏

監 軍 西徳次郎

隈ノ城
串木野 隊

一、 年 月 日 大阪上陸

二、 年 月 日 京都へ

三、 年 月 日 京都島津屋敷後静福寺

五、 小隊長 北村万之助

清水
日当山 隊

一、慶応四年八月六日 鹿兒島出発

全 〃 十四日 品川着

二、慶応四年八月十五日 竜ノ口酒井屋敷へ宿陣

全 八月廿四日 市茅御門へ出征

全 八月廿六日 下板橋へ
 全 〃 廿七日 赤塚村正月院へ出征
 全 九月三日 奥州仙台へ向ケ出発、途中坂元城ヲ征伏ス
 全 十月朔日 仙台へ着
 年月 日 石巻ヲ經テ金華山へ出征

三、明治元年十一月廿二日ヨリ
 全 十二月廿四日マデ 江戸守衛

四、明治元年十一月朔日 仙台発
 全 十一月廿日 江戸へ凱旋
 全 十二月廿五日 江戸発
 明治二年 正月廿一日 鹿兒島着

五、小隊長 谷山武之助 後松田幸之丞
 半隊長 松田好之丞 後小倉愛之丞
 分隊長 東郷一介 小倉愛之丞 後佐原休次郎
 監軍 椎原助左衛門 染川源之助

財部
末吉隊

一、慶応三年八月六日 鹿兒島出發

全 八月十五日 東京上陸
 二、慶応三年八月十五日 東京へ出征
 全 九月三日 東京出發、奥州相馬へ向フ
 全 九月廿八日 仙台城下へ

三、慶応三年八月 日 東京府下赤塚村月照院ニ戦鬪
 全 自八月十五日 至九月二日 和田倉御門守衛
 全 九月三日 東京出發、奥州相馬へ三日間滯陣後各地ニ転戦
 ス

全 十月十二日 渡之波へ漆川脱走兵征伐
 四、慶応三年 月 日 仙台ヨリ東京へ向ケ凱旋
 全 十二月中旬 東京発
 明治元年正月 中旬 鹿兒島着

五、小隊長 星山矢之助
 半隊長 本郷左善
 分隊長 今井喜左衛門
 監軍 井之上半之助 有川郷左衛門

鹿屋
小根占隊

一、慶応三年十一月末 鹿兒島発

全 年 月 日 大阪上陸

二、 年十二月上旬 京都相国寺其ノ他ノ寺院ニ宿陣

四、明治元年三月末 大阪ヨリ鹿兒島帰着

五、小隊長 平 要之丞

半隊長 洲辺八郎次

分隊長 池端方正

監 軍 横山弥兵衛

重 官
都之 城 隊

一、明治元年八月六日 鹿兒島出發

全 八月十五日 江戸立ノ口番所上ニ上陸

二、明治元年 月 日 白河仙台方面出征

全 月 日 東京滞陣約一ヶ月

三、明治元年八月十五日 陣門警衛、門内巡邏

全 月 日 白河城、中村城、岩沼城、仙台ノ青葉城等四条

参謀ノ守衛ニテ戦ハズシテ征伏ス

四、明治二年正月廿六日 帰国ノ命ヲ受ケ約二十日間ニシテ大阪ニ着、夫

ヨリ乗船

全 二年二月廿四日 鹿兒島着

五、小隊長 山口小太郎

半隊長 町田孫太郎

分隊長 池ノ上伸右衛門

監 軍 青山雄蔵

高 江
水 引 隊

一、明治元年十一月九日 鹿兒島前ノ浜発

全 年十一月十四日 大阪川口ヨリ上陸

二、明治元年十一月十七日 京都有着、明治天皇東京御移リニ付、久光公京

都御留守居トナラセラル、ニヨリ其ノ御供ト

シテ京都へ

三、明治元年十一月十七日 京都相国寺内富春軒守衛

〃 二年二月十日 二本松邸

〃 二月十日 京都出發

〃 二月十四日 東京品川上陸

自二年二月十四日
至三月三日 品川滯陣

自三月三日
至三月十七日 東京城内西尾隱岐守邸守衛

明治二年四月八日 江戸守衛

四、明治二年八月八日 東京田町出発

全 八月十七日 鹿兒島着

五、小隊長 児玉強之丞 明治二年一月二十八日退隊

後 永山武四郎(喜之助) 明治二年二月十三日児玉ニ代ル

半隊長 和田正之丞

分隊長 山崎良弼

監軍 平山佐八郎 重久七郎右衛門 明治二年一月廿八日半隊

長トナル

但シ明治二年二月二十日頃西郷隆盛城下十八番隊ヲ率ヒ函館出征ノ事アリ、之ニ伴隨シテ隊長半隊長ノミ出發出征。

當時水引高江隊ハ品川滯陣中ノ処函館征定ノ命下リ居リシモ西郷隆盛城下兵ヲ率ヒテ來リ曰ク、我水引高江隊ハ乗艦ノ都合上出征スルコトヲ得ズト、故ニ止ムヲ得ズ隊長半隊長ノミ出征セリ。

而シテ本隊兵員ハ後東京城内西尾隱岐守邸ノ守衛トシテ同邸ニ移リ凱旋ノ時ニハ隊長半隊長ハ本隊ニ歸隊セリ。

大正六年二月下澣寫

明治戊辰
鳥羽伏見

戰役戰死負傷人名及報告集

溫故知新齋主人藏

大山市二	時任 金左衛門	手負吉之助三弟	西郷 信吾
平川 丈助	深手足輕	上野 十太郎	有村 甲藏
手負	東郷 次郎作	真覺 四本	佐平次
押川 喜左衛門	義通 雅原	小弥太	腕 同
川崎 休右衛門	壯勇	相良 八郎兵衛	腹 伊地知 壯吉
藤太二男	飯牟礼 喜之助	小川 嘉兵衛	税所 藤兵衛之助
湯田 孫次郎	指宿 清藏	有馬 四郎兵衛	青山 源七
高城 十左エ門	生捕 会津藩 式人		
中村新五左エ門	桑名藩 山崎 幸一郎		
平野 甚助			
吉田 彦五郎			
一番 三日	伏見	二番 同	三番 四日
四番 四日	鳥羽	五番 三日	鳥羽
七番 十一番迄御屋敷	十二番 四日	鳥羽	大砲半隊
二大砲半隊御屋敷	臼砲打手	伏見	一番 高岡
二番 加世田 伊作	伏見	三番 串木野	鳥羽
都城	伏見	鹿籠・知寛	伏見
三番兵遊撃隊 四日より	伏見	一番兵 い十院	二番兵 上御口
足輕隊	伏見鳥羽		

一番大砲隊手負死人	死	小頭 汾陽 尚次郎隊兵士	大山 源右衛門	右腹臍の上銃丸貫き	右正月三日夜入過於伏見御香宮下戦死	半隊長 飯牟礼 喜之助	右疵左脚下深手銃丸打貫き死命支なし	小頭 汾陽 直次郎	右左乳之上深手死命を 活なし	三番戦兵	足浅手伊地知 弥兵衛	腕同 広瀬 喜兵衛	右同於伏見手負	四番戦兵	浅手 坂元 喜兵衛	右同 松元 直之丞	火傷 川上 孫七	右正月四日鳥羽街道に 於て手負						
五番戦兵 柴山 矢八	脚浅手	右五日淀橋涯にて手負	石神万右エ門下人 太郎	即死	集成館人足 喜兵衛	火傷	石正月四日	以上即死式人手負九人	一番隊	伊集院 金次郎	山田 孫一郎	八田 幸輔	長崎 尚五郎	相良 八郎兵衛	貴嶋 勇右衛門	松崎 壯八	伊地知 惣吉	塩田 勇藏	税所 藤之助	小川 喜兵衛	川上 喜兵衛	二番隊	兵糧方 加治木 清之丞	死
西 藤次郎	平岡 彦九郎	意山 源七郎	尾上 伊八郎	押川 喜左衛門	山之内平左衛門	加世田弥右衛門	町田 仲次郎	小山 嘉太郎	時任 金左衛門	瀧生 彦四郎	高城 十左衛門	伊集院彦左衛門	町夫之 徳次郎	休八	三番	入佐 助八	白尾 孫兵衛	福田 喜左衛門	堀 弥之助	平川 丈助	宅間 栄之丞	手負 兎玉 八次	死	

三番遊撃隊									
死	手				死	手			
橋口 彦四郎	大河平 宗之助	堅山 卯一郎	田中 直次郎	山沢 鉄之進	児玉 平次郎	佐藤 堅助	安藤 直五郎	川崎 休右衛門	河野 喜次郎
東郷 次郎作	貳番遊撃隊				手				死
堀添 清左衛門	奥 良之丞	餅原 平次郎	若松 彦八	久保 武之助	川上 宗次郎	有村 甲蔵	関 十郎左衛門	溝口 雄四郎	首なし
和田 乘左衛門	春田 喜右衛門	指宿 一二	大山 一二	堅山 半次郎	山口 良之丞	四元 喜之助	山口 良之丞	平八	廻

山之内一郎殿親父作次郎殿江被遣候書状写

当地者去冬九日以来物騒之次第追々御聞取も相成候半、朝野共何となく騒然人々薄氷を踏の心持御座候処、当日二日の夜伏見出張御軍賦役より私共宿陣東寺江間合相成候趣、会兵千程伏見筋、徳川麾下歩兵式千程鳥羽街道筋馳登候付、一同用意罷在候様との事にて、兵隊の人数出陣の用意いたし居候処、翌四ツ時分本營の御軍賦役田中清右衛門東寺江来着、前件之次第二付、御城下五番・六番式小隊、大砲半隊鳥羽街道警衛として被差出、東寺江諸郷三小隊同様に差出候段致承知候間、早速兵隊引連出張いたし候処、最早徳川先鋒押寄候付応接ニ相成候処、徳川慶喜上京先登被命候付罷通段返答相成候付、兼而此方ニ者洛中洛外巡邏被命置候付一先、朝廷江可相伺候付夫迄ハ御通し申儀迄与不相成段断然及返答候処、朝命なれば差扣可申与穩便の申分にて、遙下鳥羽村迄引退申候、夫故此方人数繰出切所ニ相構へ私共半隊中鳥羽村と申所、半隊は城南離宮社辺江相備居候処、彼方より追々、朝命の催促有之候へども、何分、朝議決兼候敷速に、御沙汰無之、凡七ツ半比にても候半此節は余程之大勢にて押出申出候者、私共にも朝命に依り上京致し候付同様之事候間押而罷通段申述、此方より返答には先刻より申通り朝命無之内は何等之事有之候而も御通し申儀不相成、強而御通に成候ははいつれ臨時之処置もいたし可申、夫連も御通之儀に御座候哉之旨申述候処、不苦候而打通とて手切之返答ニ而一声の喇叭鳴哉否味方之大小砲一時に打出し、片時之間に敵勢散乱死傷算を乱さる如く実に愉快之仕合、夫は賊兵下鳥羽村人家江逃散、中鳥羽村共陣所江稠敷砲発、夜入頃には田之中迄繰出し此方も進出、双方打合甚敷夜ニ入砲声少く、乍去少くは不

絶打出候付、此方も答砲何分案内不知之場所故、夜分此方より押掛候儀不相調、斥候番兵等差出敵の動靜相伺居候処、凡九ツ前後に而も候半最寄の離宮社之裏江敵兵相廻候段相知、直様惣勢軋動いたし社内にて相防ぎ、当所にて手負兩人暫時之戦にて敵逃散、暫ありて敵又初戦之街道筋へ押出し候付、又々己前の中鳥羽村へ押出し横を打候処、是茂暫時にて退去、今夜諸所にて終夜之戦、翌四日早天より下鳥羽村賊兵屯所江攻寄、敵者人家を楯に取味方は散兵にて田の中よりかかり、暫は手ひどく賊兵を砲発いたし候へども味方人数直に人家江進込、是も程なく追落し爰にて巷人戦死、手負も段々有之候、夫より追打いたし諸所ニ而戦ひいたし森と申候所迄追詰候所同所江賊兵大小砲にて打構居候処、長州勢跡を駆足ニ而先鋒江進み候得共、何分敵は要害に構へ候付此方之砲丸十分無御座候、其上味方攻場人家江出火有之候付今日之戦い先取止、今夜横大路村江滞陣番兵等差出休息いたし候得共、寒氣強く乍残念安眠出来兼申候様取覚申候、翌五日五ツ過より昨日之富之森江攻寄候処、爰にては敵も余程能防き長く打答候得共、味方より大小砲にて稠敷打かかり攻落し、淀小橋まで攻寄候処、小橋向より町家を楯に取賊兵稠敷大小砲打出し候得共、是以暫時に退散、敵淀町并橋々江火打懸退候付、淀之家中之家并町家大橋小橋不残焼失、今日者先淀橋迄にて戦相止申候、今日者手負段々御座候、今夜淀之小橋近辺江宿陣、淀之城は官軍江属し候付安穩、今夜御城下隊之内淀城内江止宿いたし候も御座候、翌六日五ツ過より淀川相渡り、今日は八幡賊兵退治に取懸候処、何分敵は要害ニ拠り遠方より破烈弾頻に打余程攻撃六ヶ敷、私共一隊は淀川西より廻り先鋒に進み敵の陸台場楯居候場所へ攻かかり、御城下淨福寺

遊撃隊と同様取かかり稠敷戦争、敵引色に成り折角敵地深く進寄り候處、賊五人岩原に隠れ居、三人切て懸り、最早味方の先鋒右場所通過候時分に案外乍去手詰にて三人共切伏、外式人は藪の中にて討取、山沢幸左衛門殿外に害人手負、河野仲五郎殿にも太刀合相成候半、賊兵無程二之台場逃去り、二之台場江打構へ稠敷砲発、味方ども小銃を以て烈敷打出双方之銃丸雨敵のことし、暫時の苦戦筆紙に難尽何分大砲を以て打留度候得共最早器械相損し用立不申候付、乍漸淀より沓挺かり入相用賦御座候處、無程攻落し申候、当所人々も手負漸く御座候得共戦死は無之仕合に御座候、賊兵之先鋒相破候付、八幡江は精兵相選為防候付長く持たへ申候、当所之戦にて橋本之台場格別戦すして退散、今日は迄にて兵を引揚、今夜橋本之手前之人家江宿陣、今夜始めて小き婦とん兩人にて被り始めて安眠仕候、翌七日牧方之動静次第攻撃之賦御座候處、賊敵牧方へも足を留候得共落去候段相聞御滞陣、翌八日朝越前落大坂留守居添役之者参り徳川慶喜二通之建白相認め大坂之城落去候段注進有之、依而私共一隊御城下二小隊、諸郷外に一小隊連日之戦争ニ付一先婦陣いたし候様致承知八日同所出立帰陣仕候、初戦三日より六日迄連日の戦味方都而勝利誠に古今稀成事と雀躍此事に御座候、鳥羽口の淀上之戦争ニ賊之死骸三四百は有之候半、鳥羽口初戦ハ歩兵之死骸多く富の森辺より会・桑之死骸多く相見得、火器之分捕夥敷いづれも会・桑の印御座候、乍賊兵も為主人身命を捨相果候儀実に不便之至、会人は鉄砲もよく打、会の守の場所は長く答へ乍敵も頼母数者ニ御座候、賊兵戦死之者頭立候者都而大坂之様船ニ而運送致候由、敗軍之有様目も当られぬ様死骸は道路に横はり、大砲小銃火器類棄之叙付もの夥多打捨有之、

中ノ筆頭に難尽、官軍勝を得候付手負戦死本陣に列帰り手厚く療養実に勝敗之差別格別成者に御座候。

一、伏見表江弥九郎出陣いたし申候間、彼の表之儀は同人より申上可申候付略し申候、全体此節三日六日迄四日間の連戦に賊兵千人位は戦死いたし候半と申事、味方戦死四拾四人、手負四拾八人位と申候事、乍去末大坂滞陣の兵も有之、巨細は追而取しらべ可申上候、稀代之勝軍分捕之多事枚挙に暇無之、大砲小銃火藥米穀其外会津守護職之折之拾万石昨年取納未進有之分は、都而薩長両藩江被下候段被仰出旁雖有次第御座候。

一、八日東寺江帰陣仕候處、当山僧正の酒壺斗樽并昆布、私共隊江四斗樽沓挺被恵候、私宿陣之亭主近藤正親と申人ハ酒并飯の馳走五ツ組にて久々にあたか成飯給味格別に御座候、しかし陣中米飲之味程は無御座奇妙なるものに御座候、下略ス。

大砲隊小隊長平吉左衛門報告

去る三日一橋・会・桑等多人数致上京候段相聞得候間、小銃五番隊・六番隊・井東寺宿陣之諸郷四小隊申談鳥羽街道相堅め候様致承知、五ツ時分大砲四挺二本松御屋敷より繰山行軍にて東寺迄致着陣、五番隊・六番隊等申談致手配鳥羽街道を押行候處、ハツ時分ニ茂候半最早見廻組と相見得鳥羽手前江押来居候段、五番隊斥候等追々告米候付上鳥羽手前迄致着陣候處拾式参間先きに最早人数百人余も相見得、手槍甲冑陣羽織等にて押来居候付、直様一先大砲式挺を押向け現迄も付居候内五番隊・大砲隊ら左右江付居狙撃いたす賦、半隊は左之方人家裏手を横討、六番隊者右之方人家裏

る狙撃之賦にて手配、五番隊・六番隊監軍・隊長・御軍賦役等申談之上右
通取究相成居候、互に暫く白眼合候処敵方四人応接に参り、惟原小弥太
江引合度申出候付小弥太引合候処、彼方京都迄致通行候而不苦候哉之旨
朝廷江御伺に相成居候哉と尋掛候付、其通伺置候段小弥太致返答候処
左様候ハ、右之趣相分迄一往兵隊を引取置候様可致旨彼方茂申出候間、
其通可被成旨返答候、然処右上鳥羽手前る先鳥羽打越川向江人家有之候三
拾町余之所江引取、又々右隊都而押掛候処敵方引取扣居候場所る式町半位
此方江大砲居付候場所且小銃隊伏兵の場所宜敷所有之候付、右之所迄押詰
街道筋江小頭石神萬右衛門組大砲屯挺外三挺、小頭大迫新次郎組、小頭岩
元平八郎組、小頭大河平武輔組大砲者城南宮与云鳥居之立居候広馬場街道
筋大砲脇田之中江竹藪有之候付、右之場所江散隊狙撃之賦、六番隊は左
手之方川土手竹藪江伏兵にて相待居候処、七ツ時分にも候半又々歩兵隊一
大隊余遙に先より追々引続相見得候付、味方ニ茂請持之大砲小銃携へ白
眼居候処、巷町余之所迄押来候間惟原小弥太外に五六人差越、当所之儀は
朝命を蒙り相堅め居候付、何分御沙汰無之内は御通し申儀ハ不相成旨申掛
候処、彼方るは此節一橋上京ニ而先鋒供方申付候間、
朝命同様之訳にて押而罷通候段申出候間、左様候ハ此方ニ者 朝命を請
罷在候付何れ無致方時宜合不及是非、此方にも随分御相対可致旨申達候而
被罷通候趣承候間、此上は無致方場合ニ付則拙者打方之号令いたし候処及
砲発、外小銃隊茂甚盛んに砲撃いたし候処、彼先鋒隊動揺之形に候得共何
分此方小銃大砲繰打に無透間押詰ニ打出候付、砲声は寸隙も無絶間、夫故
煙立覆ひ難相分、尤賊敵も大小銃を手強ク打放候得共終ニ散乱逃去候間

砲発等は暫取止候而右之場所迄差越、最早夜入候付為防禦此方る人家江火
を掛置候而、夫る又々巷町余踏込候処敵大砲式挺火薬等箱入付之儘にて其
外諸品過分捨置逃去候付都而分捕致し、最初扣居候場所迄持越候、今夜は
何れ当所迄にて相堅賦にて、尤敵方戦死之者拾式参人は街道筋に有之人家
内への死骸も余多有之由候得共、何分夜入人家江火付居候付取調候儀不相
調、夫形元の場所江扣居候、且又初戦に味方大河平組屯挺相損候付、則分捕
之大砲玉葉等取仕立方いたし置候、左候而拙請持之分隊大砲は街道筋江式
挺丈は繰打之賦にて屯置候、然処五ツ過時分より又々敵方より大小銃を打
掛候付、此方ニ茂大小銃放発いたし応居候、尤大砲弾葉は初戦に参拾発余
打出候処、余程乏敷候付分捕玉葉ニ而今夜は応居候、然処夜明前拾式参間
所に人形相見得候付、大砲小銃等打掛候処是以逃去候様子に相見得候、然
処間もなく向方る巷人此方江参り掛候者有之候付言葉を掛候処、敵に相違
なく見請候付生捕之上相糾候処、桑名藩大砲方之者之由申出候付、直様才
領付候而二本松御屋敷江送越候、左候而翌四口夜明之処ボード忽砲式挺并
六封度屯挺火薬箱迄も取揃右場所江打捨有之候付、又々致分捕相改候処右
之桑名藩所持之筒に候、尤今朝之賊敵三町余之先キ人家に隠居量等を以楯
にいたし夥敷大小砲を打出し候付、此方るも大砲小銃打込押詰候、尤最早
大砲屯挺より五六拾発打放候上街道筋難場を押行候故歟、右戦之内に又々
味方大砲式挺相損候付残り式挺江取掛込替へ砲撃押詰候処、下鳥羽村菊
亭殿御用米田場前江米・大豆俵等を以楯を築、大小砲を手繁く打出候付、
其に此方暫く難義ニ而候間大砲式挺を右手之方川原中江押出必死之勅を以
及砲戦候処是亦敗走逃散候、然処最早大砲式挺ニ相成、外式挺は相損し且

此方火藥軍江火入怪我人も有之候、分捕玉葉も打尽し夫故彈藥余程之數相成候、尤今朝より当所迄之間、大砲屯挺より五拾発余も打放候付、玉葉運送方は勿論大砲損所等取繕芳々致吟味候処、又々敵參町余之先に桶籠り大砲等居付及砲戦小銃計三而難討散見請候付、左右之人家江も火掛居候得共拙者請持之分隊之内屯挺丈曳々声にて烈火之真中を漸押通り下鳥羽村中程迄押行打掛候処終ニ追散し、夫より大砲も式町余跡迄一往引上外大砲修覆旁且彈藥之運送方等茂致吟味居候処ニ、同組之内伏見出張左平隊大砲三挺中原猶介差引押来候、左式番大砲隊大山弥助組も四挺押来候処玉葉等も持越相成候間又々押立横大路村江押入候処、淀手前之人家富之森と申所江立隠れ櫓を築居且人家等へも立隠れて大小銃を打出候付、遊撃隊西千嘉其外小銃隊余多狙撃いたし候付、右大砲を以街道筋を練打にいたし候処、逃去人家中程迄押入候得共右人家江敵火を掛逃去候付、暫時ハ及砲戦候得共何分夜入時分に相成且人家の火にて火藥等掛念ニ付、一往元の横大路村江引上げ及一宿候、尤今日中之戦には巷里余之追討候間敵方之戦死骸も過分之事候得共取調之儀不相調候、左候而其夜は指しての砲戦も無之、翌五日早朝より手配にて山崎街道より二隊、鳥羽街道より二隊并大砲隊二隊、其外諸方小銃狙撃を以富之森敵台場及砲戦候処、中々手強ク置又は酒樽等江砂を入れ櫓といたし大小銃を夥しく打出し、敵も必死と相見え突に暫時之程は難儀申討なき勢ひにて候得共、此方よりも大砲并携白砲二十挺等を以烈敷各隊中粉骨碎身追立候処、終に一の台場は乗取、二之台場に参り掛候処、是以前同様手強ク敵より打出候事中々烈敷候へ共、此方必死之働を以曳々おうの声を掛追立候処終ニ追落致散乱、尤右戦之内二番大砲隊大砲

相損候由御座候、当所江又々四封度半砲式挺玉葉等も十分ニ入付打捨有之候付追々致分捕、屯挺は直様持越用立候、敵戦死も拾五六人者街道筋江相見得候へ共余は人家内所ニ有之、死骸其數不相分、何分右戦烈敷候故敵死骸取調候儀不相調、敵の死骸を踏越く押詰候処、大砲屯挺杯は死骸の上江居付打出候場所も有之候付、終に淀橋向迄追落候得共、又々手強ク大小銃を打出候付此方も大砲練打敵敷攻立られ候哉終に淀城下町江火を掛櫓江も同様火を掛逃去候付、押渡候儀不相調候得共敵方之者方々八幡橋本辺江逃散之由、夫故外小銃隊残し居候付、一往大砲隊式隊ハ修覆旁玉葉仕合として伏見迄引上ケ候処、何分大破損有之候付京都迄平隊ツ、交代当分修覆最中に御座候。

右之通去ル三日より五日迄戦争、鳥羽街道之成行見及居候間此段申上候、以上。

大砲隊

小隊長之場 平 吉左衛門

大寺矢七殿書状写

一筆奉啓上候、余寒難去候得共母上様益々御元氣可被遊恐悦至極奉存候、
扱当地にも今月三日早朝岩等隊長野津七左衛門本營より御用にて被罷出候
処、坂兵一・会・桑等 鎗長刀にて上京ニ付差留べく候旨、
朝命を蒙り六番隊応援隊に相成、即刻御屋敷打立足并正々堂々として義氣
天を衝き黒雲の巻揚る如く既に東寺江若し 鳥羽街道之
先手なり 右半隊は夫より東寺
を去る二十町許りにして土橋有り、上鳥羽と云に至り候処、最早徳川家の者

其其処まで出張見廻組之者鎗薙刀を携其外歩兵三十人許一人十間許り隔り
来れり、夫ハ則ち長兵より差留め候、但長州・薩州之二藩伏見鳥羽請持其
余之藩人ハ加はるを得ず、長兵の出張より去ること五町許りにして徳川家
之者有り、彼の者共と応接し監軍権原小弥太・山口仲吾なり朝命を受け差通す事不相成
旨相達し、何れ朝命の有るを相待るべしと云、賊徒朝命ならば拒にあら
ず可相待と云て十町許り退て相待兵を引て朝命を相待と云て退く（金力）に吾半隊も来れり、夫
に付追而又小枝橋と云土橋に至り超経て城南離宮八幡之前通りに至れり、
能要害と相固め居たり、時に先手たる管の諸郷兵隊三隊来れり、吾等の指
揮にて八幡社之方東江一隊備へ、一隊山崎街道之方之西に備へたり、吾
等の備場より去ること一町半許りにして町家六七家軒あり、其処に愚弟等
四人ツ、狙撃之者隊より八斥候として至り居れり、其時騎馬三人来り、然
とも吾等差留暫時ありて見廻之者兩人来り権原江談ず、其時歩兵一大隊計
り来り此街道差通候間左様心得具候様申す、此方々朝命にて相固め候間不
相成旨相達し候得共再三に及んで不聞入候ニ付、左候ハ、此方にも其所置
可致とて静々と相帰り、先刻大砲隊来り城南宮横道に三挺、本街道に一挺
半座備へ、六番隊は素が加茂筋とて川筋あり、其隊吾隊之西之方竹山あり
横打に備へたり、吾等より横に出る廿間計り素より喇叭にて相図相定置候
付我等相帰り右之由斯と相告候処、大砲には素より玉込小銃隊は処々に分
隊ツ、相散し相待居候処、無間二列組々にて一大隊計りの大人數押来れり、
其間を隔ること廿間許りなり、四斤半の大砲打出し小銃六番よりも一時に
打立て候処、木の葉の風に散る如く、然とも三四人許も踏留り暫は打合候
得共遂に打斃され半町余り追討いたし、即刻に兵を引揚本之処に帰り相固

め候処、長人一分隊計り来れり、感心く御手印迄にとて首一級を望む、
則相あたへ本の如く相固め居たり、然共本道には大砲二挺に格成し、其脇
に小銃相備へ居たりしに間もなく夜も入り五ツ時比ニ相成候処、会・桑之
賊徒襲来候得共静まり返り前之六七軒江火を懸候敵寄を知る為なり、夜中
五六度寄来候得共則打斃され寄る事不能、然処東方なる油小路江五六人も
候半歟竊に廻り諸郷兵江寄来候得共是も左迄之戦に不及して引退く、既に
夜も明候に又々押来り、此方よりも大砲隊を本街道先手脇方江小銃田島江
散開し押行ければ大勝利、五番隊には死人一人岩山佐平太戦死、敵を打事
実に數不知未曾有之大勝利、既四日五日迄に戦ひ吾には淀迄追討、暫時相
戦い筆紙に難尽、新年之更代にて淀より帰陣御屋敷に在て緩々寛々御祝喜
被下候、是より又關東征伐を相始可申候間必す錦を着て帰る期御待可被下
候、八口方には浪花城を捨て出帆、但し八幡・山崎之戦敗れしより遁去也
十五日には

此段別に書付有之歟

帝御元服被為在、太守公には如斯之仕合御覽可被下候、然処戦争後金子五
兩頂戴誠に難有、外に老兩被成下羅紗之バツチ杯相調申候末略す。

辰正月十六日

大寺矢七安純判

大寺雄之介様

森 八之進殿書状写

一、去月晦日伏見表奉行屋敷与申所有之、其内江新選組与申人數三百人程
も相集候段相聞得、其外歩兵人數一大隊程罷居候段も相聞え、右之為締、私
共一小隊差越申候御香之官江相和候処、正月三日朝五ツ時分る同所打立申

候而桃山出張候折、豊後橋の方より歩兵新選組三大隊通掛り其兵押留申候処、間もなく伏見之御屋敷江火を掛夫の戦争相成申候、其火新選より相掛候由、私共所江雨之降るごとく鉄砲之玉打掛候得共、氏神の御守護にて候半哉与眼を居罷在申候処毛頭かすり疵も逢不申候、四日之朝よりは鳥羽街道四五大隊掛り、私共は一番分隊にて御香之官にのこされ候処、只一分之残人数十七人其内式人は逃去り候而跡人数十五人にて半分道計追掛申候処、玉の来る事雨之降るよふに有之、鳥羽街道にて本込之鉄砲を挺打取申候、私にも七人程打居候登存申候、纔十五人之人数にて二三大隊も候半大勢を追掛候次第神力にて御座候半、八幡も追落し八幡之下橋本村と申所台場より大砲打掛申候処、川向江有之藤堂之堅めより横矢打掛候処、又落去、夫の牧方落去候、味方人数手負死人百人計、敵手負死人千人程、伏見奉行屋敷内には死人之程数不知候由、又鳥羽街道之死人数不知、淀辺の死人夫の数多し、又八幡之下辺の死人又多し、是丈けはたをれ居候を見申候人計にて御座候、其余に五十石積舟江死人如山淀口を四五艘相下り申候を見申候、誠以小難子の肴之為干浜迎之通御座候、吾人式人の死人見様見にくき事に而御座候。

一、御所より錦之御旗被相下初戦に相勝申候処、八幡辺は敵にて御座候、桑名も西郷吉之助殿江会取家老甲を抜申候而先手の勢を留て呉候様相頼申候由、大坂之城も長薩にて請取相成申候、私共晦日に京地を出、当月八日五半時分帰京仕候、然今日は飛脚立有之段承荒々無事之御左右申上候。

正月十日

森 八之進

父上様

久留島伊予守様藩中小川平蔵・作問主税京都より去ル十七日
鹿兒島へ罷通候節御胎手之者とも中村藤助覺書左之通

一、正月六日京都出立之節者堀直太郎殿同伴にて候由、播州姫路に而者薩州長州之人差通候儀は不相成与申所より、直太郎殿には駕籠を抜被立去候由。

一、十二月九日内府江八百万石一往被召上候旨

勅命有之、尤己来可然御所置可有之との事候得共、其義内府承知無御座候由、然処其初より尾・薩・土・芸より内裏取固め相成候由、尤此日五摂家・議奏・伝奏参内御取止有之、

一、十日夜会津・桑名京都守護職、所司代御免、

一、十二日内府より申出相成候は何分会・桑当分之處承知難致、然共

禁闕江砲発之義も不相濟、就而者一往為鎮靜右両藩大坂江列下り可申との事にて、同日九ツ時分二条城并所司代屋敷明退大坂江罷下候由、其節付添相下候諸侯には美濃・大垣・会津は勿論其外松山・高松・紀州・姫路、彦根は少人数之由、

一、廿三日頃より伏見江大坂より新選歩兵・会藩兵伏見奉行屋敷江楯籠候由、

一、右三付薩・長・土追々伏見江出陣、桃山御地御香之宮同断、

○廿六日頃尾島田宮弥雲と申候者為鎮靜勢引取候様伏見江、且尾島侯大坂之城江被差越理解相成候処、内府にも一応承知為有之模様三付引取有之、

一、廿九日 朝廷にも日々御門御出御、薩・長・土・芸四藩之備与御視、

此当日筑前より五卿方御帰着之れあり、

一、正月三日七ツ時頃より伏見鳥羽江幕兵大坂より襲来、其兵薩藩より応接當時兵器携上京之儀は訖と御差止之処、何様之心得を以右通候哉之旨問掛有之、然処彼方より相答候ハ此節は内府之命を請罷登候と相答候由、内府上京之義名可成質素ニ可罷登との趣、

勅定兼而有之候付、別段

勅命無之候而者差通之義不相成と申入候得共、不聞入則彼方が致砲發候由此時幕勢三千計薩兵一大隊位之少人数故苦戦、然共手負死三日之間纏に四拾人位にて幕兵死去数多有之、此日鳥羽も戦争有之、○四日朝伏見落城鳥羽・下鳥羽辺戦争、幕兵より之分取大砲八挺其外小筒過分有之由、同日八ツ時分伏見之官軍鳥羽之様廻る、此兵者東寺江罷居候兵之由、○五日淀之取計屯居候兵薩・長・土之勢が追退、然共淀勢は城を明降参いたし候由、○六日八幡山崎之方攻方有之、○五日仁和寺官様 朝廷為御名代々愁伏見迄御出興被遊、○丹波口は西園寺様為總督御出張、○龜山城江者薩長兵が堅之由、○三日之夜九ツ時が室町竹屋町出火、御屋敷近辺故騒動然共薩長之人数にて鎮火、○小川平藏帰路、去ル九日備後福山を長州より攻取、尤当日朝六半時分が戦争にて候由、然処備後尾之道長劫本陣にて候処八ツ時頃に攻取候届相成候、○讃州高松辺に当火相見得定而土州勢が攻掛候半承申候事。

一、今度朝敵征討ニ付九茹之諸侯よりは此御方が夫々使節被差向御別紙之通布告文被相渡、若名分大義に暗く至今口勤 王之赤心無之逆賊私党いたす族於有之は則追討之師被差出管候、此旨一統奉承知候様向々江致通達諸郷私領江可被中渡之旨領主諸所へ可申渡候。

慶応四年辰

正月

(島津久治) (桂久武) (川上久齡) (町田久憲)
図書 右衛門 龍衛 内膳

布告文

天に無二日地ニ無二王、是天地之大經万世之通義也、往時皇国衰弱之弊に乘し、徳川氏兵馬之権を掌握せしより已来 王室愈不振、其漸終に至尊徒に虚器を擁し給ふのみ、万姓をして

天朝有る事を不知しめ近代に至りては畏くも奉輕蔑朝威之罪枚挙するに違あらず、天下之人々切齒悲憤する所、就中西洋異邦に對し自ら日本大君と号し異邦之人亦日本大君と称すれハ、甘して是を受け

朝廷厚く寛典に処せらるると雖も、動すれば上を欺下を誣之奸跡多く、今之徳川慶喜事飽迄

天恩を蒙りたる身として日頃に至

王政復古の大典を嚮望し、陰に禍心を包蔵し松平肥後・松平越中等其兇謀

を助け、天下之乱魁と成り、既に本月三日暗に大坂を發して干戈を王議に動し恐多くも奉襲

鳳闕之逆謀顕然たるに依り、即ち尾・越・薩・長・土・芸其他誠忠有志之諸侯、勤王之義兵を以賊徒を鳥羽に敗り伏見之賊陣を討ち、官軍大に勝利を得て賊之将卒敗走し、淀川を経て大坂に逃げ行を追撃したり、

新天子神聖叡武にましまし速に斧鉞之任を仁和寺親王に下賜、征東將軍宣下ありて諸參謀副將各々 勅命を奉戴、同九日大坂城を攻抜き逆賊を追散し党与等悉く伏誅し或逃隠たり、官軍山崎の賊関を破り八幡山に抛り大

坂落城の後ハ摂海は勿論城市共に官軍堅固に守り、翌十日に至りては東賊一人も不見落去せり、天兵の向ふ処結たるを權か如く彼の親従たる井伊・藤堂・稻葉等之輩を初悉送款歸順して官軍に属せり、爾後賊魁徳川慶喜・松平肥後・松平越中身首之所在を不知と雖も、天網疎にして不洩之理なれば自然束縛に可附者なり、率土之兵王土に非るはなく普天之下王民に非るは無し、誰か今日 天朝多難之際に當りて王家に勤めざるべき、仍て遍く列藩各土之將士西民万姓に布告す、早く賊魁徳川慶喜・松平肥後・松平越中等を誅伐し、天地不容之罪を正し上み奉安 震懾、下万民塗炭之苦を解き皇國之全疆を静鎮すべし、若今日に至り名分大義に暗く誤て 王師を拒み逆賊に私党するものは忽ち天誅を可加、譬令徳川慶喜等之親族姻類たり共大義を守り勤王之志ある者は其実効を顯して可奉報 天恩、一旦逆賊に註誤せられのか党たりとも自新意を發し反正歸順之輩ハ不録旧惡 王師之内に可召加ニ付、速に去就を決し尽力竭忠共に自可翼戴 王室、首鼠兩端を抱て擬議猶豫するの族は邪正曲直判然たる 天裁可有者也。

正月

嶋津中將

右布告文使節辰正月廿四日被仰付候事

二丸御側役 蓑田 伝兵衛

御作事奉行 肥後 直次郎

右 肥後 佐賀 筑前 柳川 久留米

御勝手方掛御用人 園田 彦左衛門

助 教 久保田 新次郎

右 飯肥 高鍋 延岡 臼杵 岡 中津 森 杵築 府内 小倉

日出 佐伯 島原 唐津 平戸 五島 大村

御文書奉行 横口 与一郎
御小納戸 川崎 強 八

相良甚之丞氏書簡

一、去る三日夕七ツ時分ハ伏見并鳥羽街道ニ而徳川・会・桑人数上京応接之上戦争相成、夫故終夜今ニ戦相止不申、乍併此方人数過半右場所江御繰出し相成至極之勝利御座候、戦死人数も只今迄拾五人其外手負人数も段々有之、我々共類中未無事罷居申候間左様思召可被下候、私同組人数朝々黒谷江会人罷居候ニ付打手被仰付大砲拾発計打方いたしせめ入候処、最早人数逃去候付兵器分取無事罷歸候、今日迄は元氣に御座候間返々も御安心思召可被下候、只今飛脚立承候間荒増一左右迄如斯御座候、

辰正月五日

相良氏敷
甚之丞

母上様 主水様 守衛様

追而主水様へ前文申上候通万一之事も有之節は跡家内中之義者宜敷御賢慮を以、是計は奉合掌候、於後荒増乍恐御推察可被下候。

一、砲番隊、六番隊迄關東征伐出張京都辰二月九日発足、

一、三番遊撃隊海軍所ハ罷登候人数也、

右中將様御供にて罷登候人数、

一、豊瑞丸辰二月十二日大坂着、高松屋敷前江宿陣、

右左エ門殿一列人数、

一、河野仲太夫殿眼病にて京都辰二月八日日出立、大坂十二日着、当月廿四日夜半下着、同晦日御届罷出られ候由、

二月十一日、關東征伐として木曾道東海道二手に別れ、木曾ハ濃州大垣にて勢揃有之由ニ付、御国より東海道へ一番・二番・三番隊・一番砲隊半座差越、木曾道へ四番・五番・六番隊・二番砲隊半座去ル十二日出陣いたし候由、諸藩中芸州・土州・肥州・越前・尾州・雲州・筑前など軍勢追々繰出相成、一昨十五日には官軍惣大将有栖川宮様にも御出陣相成、諸藩中御供之軍勢夥敷事ニ御座候、

一、正月十四日には姫路城責として御国より一番・五番・十番・十一番隊・一番式番遊撃隊半座差越候処、早速城明渡官軍江相付候、讃州高松も謀臣の首を切て味方ニ屬し、勢州桑名、濃州大垣、若州小浜杯關東征伐先鋒を相望候付其通御免被成候由、

右京都、二月十九日立之足輕便申來。

徳川方之書写

上意之御書付写（上意とは慶喜之意ならん）

尾張前大納言松平大藏大輔を以可致上洛旨御内諭を蒙奉候付、去ル三日先供之者四ツ塚開門ニ相越候処、松平修理太夫家来共無謂通行差拒兼而使兵等之手配致置突然彼より及砲発兵端を開き粗暴之舉動に及候は全修理太夫家来共一己之所業ニ有之、刺矯 叙慮朝敵之名を負し屯藩之者を煽動し人心疑惑を抱き戦利ならず、此分ニ而は夥敷人命を損し候のみならず、可奉寧 震懾誠意も不相貫、紛紜之際曲直判然不相立候而ハ深キ見込も可有

之、兵隊引揚軍艦ニ而一先東歸致候、追々申問候儀も可有之候ニ付銘々同心戮力為國家可抽忠勤候事、

右 人吉家申る此御方へ布告之様ニ相記有之候事

上様御事去ル六日 御乗船、同八日御出帆、今朝四ツ時被遊還御、右之趣意者尾張前大納言松平大藏太輔下坂、上様御上洛京都御取締被遊候様被仰出、其後御催促も有之候而御上洛之思召ニ付、去ル三日御先手御人数鳥羽街道より御差登之処、四ツ塚開門ニ而長州・薩州人数相固居差通不申候付御先供之誤を以談判中彼方砲発ニ及候付、其儘ニも難差置不得止事戦争相成候へ共不意を討候付遂に敗走、繰引に曳取候、然処 朝廷も薩長幕府謀叛を起し候様及奏聞候様子ニ而朝敵之旨御沙汰之趣被成御承知、全朝敵ニ被為成候誤ニ無之候得共、一旦被仰出候上ハ彼是被仰立候而も御申訳之様に有之、戦争ハ猶更不宜候付御使者を以戦兵引上候様との御下知ニ相成、一先還御之上御策略も可有之篇と御吟味之上猶亦御上洛 朝敵無之様被仰上奸賊御掃被遊思召ニ而被遊還御、実に恐入候事ニ而此以後猶亦奮発尽忠勤候様可致候

美濃守殿御達書写

上様御事御軍艦江被為召、去ル十三日西丸へ着御、此後の動静により速に上洛可被遊答候

（筆者奥書）

坂田長愛

戊辰役出陣日誌

慶應四年辰七月出兵被仰付候段承知仕候ニ付、急速出府仕候處、番兵三番隊嶋津新八郎隊江被取入、八月三日之振出帆相成候、四日晚五ツ時分肥前之沖ニ而大風吹起リ、帆柱を茂吹折大難船ニ及、五日朝五ツ時分肥前平戸領大嶋江乍漸取付、六日風風出帆仕候、九日昼八ツ時分越前敦賀の港へ着船仕候、十日滯船、十一日昼七ツ時分同所出帆、十三日朝五ツ時分越後柏崎江着船ニ而、同日猶亦出帆、八ツ時分新潟へ着船上陸。十四日十五日迄宿陣、十六日朝又羽州表江進撃被仰付、夜九ツ時分乘込相成、十七日朝七ツ半時分致出帆、昼八ツ時分羽州秋田之浦江着船、早速上陸行軍ニ而城下明覚寺江宿陣、十八日朝四ツ時分同所行軍ニ而官軍御本營江罷出候所、九条様御目通り被仰付、直ニ拜謁相済、又々行軍ニ而其夜同國堺と申所へ一宿。十九日朝六ツ時分登足、昼八ツ時分同國神宮寺へ着ニ而廿日、廿一日宿陣、廿二日曉七ツ時分長崎振遠隊江更代、台場相固居候所朝四ツ時分花立る賊兵押寄川越隔砲発ニ付、固場より茂防發仕候、暫時にして賊兵退散、廿三日朝五ツ時分賊巢花立江進撃被仰付、一番隊并番兵五小隊正面を相掛リ、昼八ツ時分砲發ニ而終夜戦争、劇戦ニ而手負戦死多ク隊長島津新八郎者士官の□曉ニ戦ニ及申候。二番隊・五番隊ハ角館を進撃相成候、猶亦秋田并肥前嶋原・大村・長崎振遠隊等之兵隊者下刈和野を進撃相成候、已に廿四日朝まで連戦候處、五ツ時分ニ茂候半賊兵不意ニ横合る勦撃打出候ニ付、防戦の地理不宜候ニ付、正面の官軍早速御引揚相成、始ニ相固居候台場迄引取、其儘九月七日迄相固居申候、其内八月廿五日角館・下刈和野・龜田等戦争、九月二日又候龜田戦争アリ、尤八日ニ者猶亦惣官軍進撃相成等候處、四番遊撃隊固場江賊兵を押寄勦撃仕候得共、私共固場へハ相掛リ不申候、此戦朝五ツ時分相始暮六ツ時分迄ニ終申候。同日龜田

相固候秋田・新莊・筑州三藩之兵、賊兵之為ニ被打破、秋田藩隊の神宮寺御本營江援兵乞来候由ニ付、私共三番隊之内一分隊者神宮寺を夜九ツ時分繰出、九日曉七ツ半時分和野へ着仕候。此所ハ賊の屯所る三里位奥江行拔候所ニ而御座候、夫る早速出立ニ而同國戸嶋江暮六ツ時分着ニ而其夜宿陣、十日朝四ツ時分迄ハ敵の景況不相分候處、賊兵の堺・檜山・荻和野三ヶ所ニ責寄砲發仕候ニ付堺応援被仰付候旨致承知、早速繰出シ九ツ時分堺江馳付申候。是る南ニ中リ上淀川と申所ニ而秋田藩戸村大隊賊兵を被打破逃来候ニ付、私共隊を引立相進候折柄賊兵後口ニ相廻リ前後を攻立候向御座候ニ付、是る船岡と申所迄引取台場築立相固申候、其晚私共一分隊之内高山士族川俣幸吉・田代士族日高庄之助・小根占士族久木山早太并私迄都合四人戸村大隊百五十人之小頭差引相勤候様監軍小隊長を被仰付、即刻の整隊仕候而同所へ台場越築相固申候、十一日朝五ツ時分堺江斥候として秋田兵八人薩兵式人差出候所、昼九ツ時分船岡へ歸り探索形行懸念之段申伸相成候ニ付早速繰出、昼七ツ時分堺江着仕候、其人數薩・秋・合隊式百人位ニ而台場相固候所晚五ツ時分賊兵押寄致砲發候ニ付戸村隊相進防戦いたし候處、凡ソ一時許ニ志て賊兵引取申候。尤戸村隊勵まし方ニハ心配仕候、十二日檜山合戦相始リ官軍ハ秋田藩小野崎三郎隊・筑州・肥前平戸・新莊・佐土原半隊・薩兵一番・二番・諸郷番兵四番・五番隊ニ而御座候、此戦大勝利、刈和野ニ茂同刻る相始リ官軍大勝利、其手ハ嶋原・大村・薩兵四番遊撃隊ニ而御座候。私共固場ニ者敵相掛リ不申候。十三日も相掛リ不申、此日佐土原半隊着陣相成候、尤残り半隊ハ檜山にて敵と取結び劇戦之由、十四日同所相固終日無事、昼後檜山の薩兵五番隊・二番隊堺江

着陣相成候、十五日九半時分淀川の賊兵押寄砲落ニ付応抱いたし候処暫時
ニして引取申候、昼七時分因州鳥取之兵三百人斗并佐土原半隊着陣相成候、
然所賊兵東の山手を相廻り後口越断切抜討にいたし追々危急ニ迫り候ニ付
私ニ者船岡之御本營迄馳歸り援兵御出可給旨申上との急御用被仰付、秋
田藩一人為按内召連敷越潜り、山越超え息を切て敵中を忍通り下淀川辺へ
出候所、賊兵ニ見付られ砲丸雨の如く打掛候ニ付、溝越伝ひ土手越経、膝胸
或ハ匍匐して砲丸を避、乍漸川端迄無事ニ馳付申候間川中へ飛込、水中越泳
リ川下り馳行候得者、夫る砲丸来不申、此時川中ニ而鉄砲取放候得共探江
不申候、日暮七ツ半時分船岡江着仕御用之趣御本營へ申上候所、早速援兵御
繰出相成候得者賊兵敗走仕候、左候而私ニ者夜五ツ時分御本營の御暇ニ而
馳歸り、夜八ツ時分堺江着仕候處、最上官軍御引揚相成候跡ニ而味方も敵
茂在所相分り不申、賊の死骸足の踏所も無く苦戦之跡と見受候故、万一味方
之死骸茂やと彼方此方馳廻り探索仕候折柄、夜八ツ時分溝之渥ニ而拔身の
刀持たる人へ行遇候、月影ニ而よく相分り不申候儘下ナカと問掛候得者
庄内と答候、彼方るも何所かと相尋候ニ付庄内と偽り置太刀拔放候内ニ敵
る切掛候、其鋒先キ右の肩先を袖へ少し相掛り申候得共身肌ニハ相掛不申
候、私ニも遠く踏込切掛候へハ敵の肩先へ少し相掛候、又々彼者切掛候處越
私ニ者刀引取儘胸板越突候得者即座ニ倒候故、首打落袖印切添へ御本營へ
差出置候、賊ハ松山藩ト札ニ書記有之候得共名ハ相分り不申候、外ニ長州藩
一人同所ニ而太刀の打合いたし首ニツ打取一所ニ連立船岡迄引取申候、其
路筋へも賊とも屯集いたし居候故閑道を経罷通り候、此日の戦争他隊并諸
藩大苦戦生捕五人有之候由、十六日夜明前迄砲発いたし候。生捕三人あり

大勝利ニ御座候、夫る賊退散仕候ニ付追撃ニ而庄内清川口進撃被仰付、朝
五ツ時分堺出立、九ツ時分あめよし相へ着、是る亦早速出立、其夜神宮寺
へ宿陣、十七日涉岡へ泊、十八日る廿二日迄湯沢宿陣、廿三日院内、廿四
日新莊金山へ泊、廿五日新莊城下へ一宿相成候所庄内降伏之御報知到来ニ
付城請取として御繰出相成候、廿六日中渡一宿、廿七日古口を川舟ニ而庄
内領清川口へ着船、廿八日庄内鶴ヶ岡城下繰込、廿九日る十月朔日迄宿陣、
二日三日同国酒田へ宿陣、四日松山城下、五日酒井領分荒鍋新田泊、六日
清川口を川船ニ而新莊領古口へ着船一泊、七日又々川舟ニ而本變海着船一
泊、八日船方、九日秋元領分立岡泊、十日る十九日迄山形城下へ宿陣、廿
日廿一日上之山城下、廿二日米沢領分赤湯、廿三日米沢城下、廿四日同国板
屋、廿五日る廿八日迄奥州福島之城下、廿九日晦日同国二本松城下、十月
朔日郡山、二日白川領矢吹、三日白川城下、四日芦野、五日大田原、六日
喜連川城下、七日宇都宮、八日小金井、九日古河、十日粕壁泊ニ而十一日
仙住へ着、十八日迄宿陣、十九日品川泊、廿日る東海道日数十九日ニ而十
二月九日京都祇園町へ着十二日迄滞在ニ及候處、此日二本松御屋敷ニ於而
太守様御目通り被仰付難有

御沙汰奉承知身ニ余り奉存候、十三日御暇被下候而大阪へ下り申候、十四
日る大阪滞在、廿一日大阪を平穩丸へ乗付致出帆候處、廿四日晚る四国の
沖ニ而難船仕候、廿五日廿六日迄茂至極之難儀ニ及皆々髮杯切申候、廿六
日乍漸日州細嶋江着船、廿七日美々津泊、廿八日佐土原泊、廿九日高岡泊
ニ而御座候處此所御暇被下候ニ付已正月二日宿元へ着仕申候。

右之通出兵申候事件委細申上候様承知仕候事、此段御届申上候、以上。

戊辰殉難姓名録 鹿兒島県編纂

明治二年己巳五月七日海軍箱館ヲ攻撃スルノ時艦中ニ戦死ス年三十六	鹿兒島藩士族	和田 彦兵衛
全年五月十一日桔梗野戦ニ重創ヲ被リ六月二日ヲ以テ函館病院ニ歿ス年三十四	士官	春日丸測量方 秋清
全年四月二十四日松前三股ノ戦ニ重創ヲ被リ五月二十四日夜ヲ以テ青林ニ於テ死ス年二十三	全 藩士族	恒吉休右衛門 勝實
全年三月二十五日陸奥国南部領桑ヶ崎ニ戦死ス年二十三	全 隊戦兵	坂元 与八
全年五月十一日函館亀田村桔梗野ニ戦死ス年三十二	全 隊戦兵	島田 市次郎
全年五月十一日箱館ニ於テ戦死ス年二十二	全 隊戦兵	周次
全年五月七日函館攻撃ノ時艦中ニ戦死ス年二十一	全 隊戦兵	鬼丸甚右衛門 貞行
全年五月七日箱館攻撃ノ時艦中ニ戦死ス年二十一	全 隊戦兵	田中 泰蔵
武蔵艦ニ焼死ス	全 隊戦兵	純義
	全 隊戦兵	郎山 貞助
	全 隊戦兵	春日丸火焚 貞堅
	全 隊戦兵	春日丸水夫 三迫 宗太郎
	全 隊戦兵	鹿兒島藩士族 有村 源次郎

全艦ニテ焼死ス	全 藩士族	小田 新次郎
乾行丸乗付焼死ス	全 藩士族	松崎 宗之進
春日艦乗付焼死ス	全 藩士族	重信孫右衛門
全艦ニ乗付焼死ス	全 藩士族	坂元 郷次郎
全艦ニテ焼死ス	全 藩士族	橋口 清太郎
全艦ニテ同	全 藩士族	池田 宗之進
全艦ニテ同	全 藩士族	松元 小八
慶応三年十二月賊徒ト江戸芝田藩邸ニ戦ヒ死之	鹿兒島藩士族	篠崎 彦十郎

全	立花 直記
全	柴山 良助
全	白石弥左衛門
全	関 太郎
全	児玉 雄一郎
全	天辰雄右衛門
全	黒田 松栄
全	山下惣右衛門
全	内藤 栄助
全	今村 善兵衛
全	大崎 庄八
全	大崎 米次郎
全	大崎 猪之助

鹿兒島県史料刊行委員会

(五十音順)

川越正則	南日本新聞社
芳即正	鹿兒島市立女子高等学校
北川鉄三	鹿兒島大学教育学部
桐野利彦	鹿兒島県立教育研究所
五味克夫	鹿兒島大学法文学部
郡山良光	鹿兒島経済大学
小西四郎	東京大学史料編纂所
犀川稔吉	鹿兒島県教育庁
竹内理三	東京大学史料編纂所
原口虎雄	鹿兒島大学法文学部
福満武雄	鹿兒島県文化センター
宮下満郎	鹿兒島県立鶴丸高等学校
村野守治	鹿兒島県立加世田高等学校
桃園恵真	鹿兒島大学法文学部

非売品

昭和四十三年三月三十一日

発行所

鹿兒島市城山下町一

鹿兒島県立図書館

印刷所

鹿兒島県教員互助会印刷部

